地域におけるサーキュラーエコノミー実現のためのガイドライン

Vol.2

サーキュラーパートナーズ事務局

©copyright Circular Partners

目次

序章：本ガイドラインの目的	P.03
第1章：地域単位でCE*1に取り組む重要性	P.06
第2章：地域循環モデル（情報の一式 概要）	
2-1：本資料の立て付け・概要	P.12
第3章：地域CE指標	
3-1：概要	P.21
3-2：目的	P.22
3-3：地域CE指標の考え方	P.23
3-4：主な指標項目（大項目・中項目）	P.25
3-5：地域CE指標の活用方法	P.26
参考1：地域CE指標一覧	P.28
参考2：地域CE指標をめぐる動向	P.44
参考3：GCP（Global Circularity Protocol for Business）とは	P.46
第4章：地域におけるサーキュラーエコノミーの評価・推進ツール	
4-1：概要	P.49
4-2：ツールの目的	P.50
4-3：機能と活用場面	P.51
4-4：ツール活用による効果	P.52
付録1：用語一覧	P.54
付録2：地域CE指標　出所一覧	P.58

*1:CE＝サーキュラーエコノミー（Circular Economy）の略称。本ガイドラインでは、当該用語の表記は「CE」に統一する（固有名詞・引用は除く）

©copyright Circular Partners

序章：本ガイドラインの目的

©copyright Circular Partners

本ガイドラインの章立て

本ガイドラインは、自治体・企業の“地域でサーキュラーエコノミーに取り組む意義”、及び“地域のCEの現状を把握する指標とツールの活用方法”の理解を促すことが目的である

地域としてCEに
取り組む意義が分からない

自治体としてどのような
資源循環ができるのか分からない

地域のCEを進める上で、
何を指標とすべきか分からない

自治体の**CEの取組状況や立ち位置を**
定量的に把握できず、
必要な施策を検討できていない

施策の効果や自治体の変化が見えず、
継続判断や外部への説明ができない

第1章 地域単位でCEに取り組む重要性

- CEの目的や地域で取り組む意義・重要性について説明する

第2章　地域循環モデル（情報の一式 概要）

- 自治体においてCEの取組を推進される際に参照いただける「地域循環モデル」について、実際に自治体で推進されている先行事例等も踏まえ説明する

第3章 地域CE指標

- 地域のCEの取組状況を測る指標について説明する

第4章：地域におけるサーキュラーエコノミー評価・推進ツール

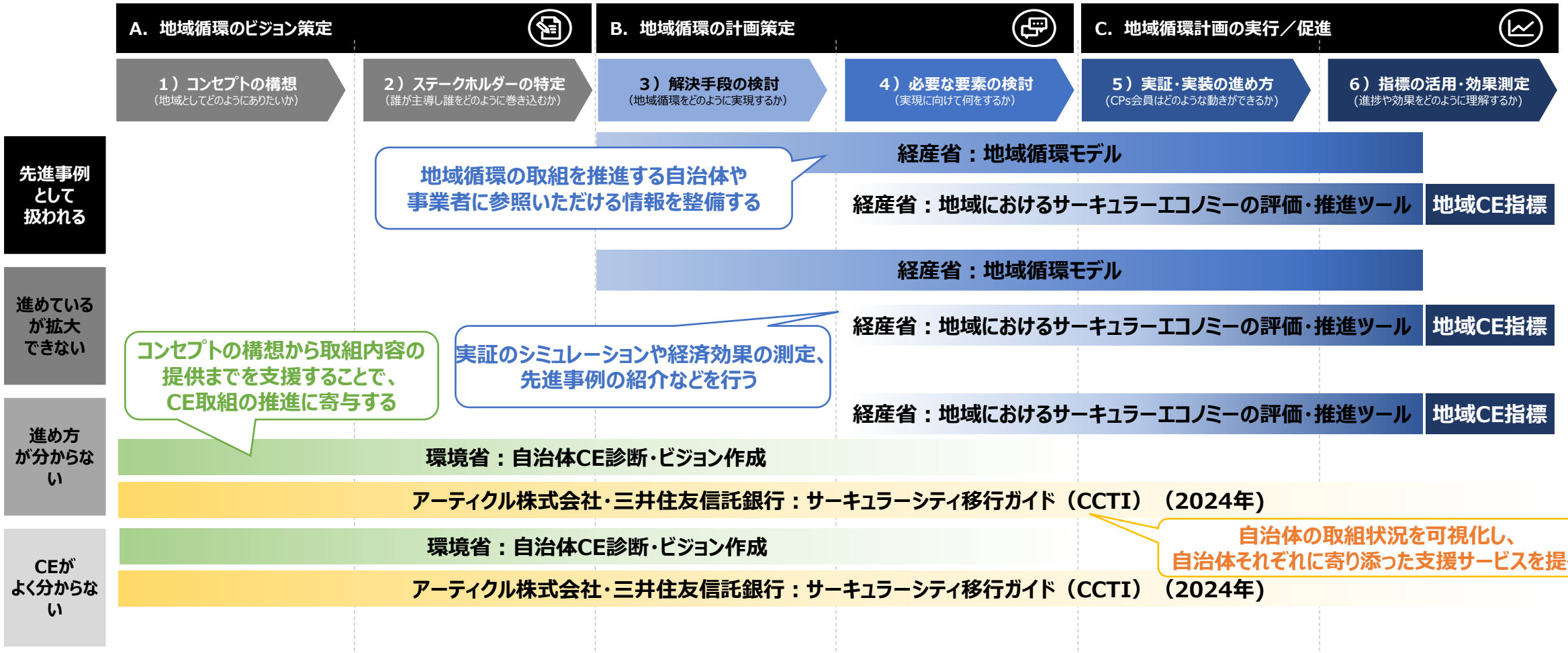
- 地域・自治体におけるCEの推進に向けた、現状分析から取組の検討、効果検証までを包括的に支援するツールの機能・効果を説明する

©copyright Circular Partners

各ツール・ガイドの対象範囲の整理

地域CE指標とCCTIの役割・位置づけとして、地域循環のビジョン策定～計画策定がCCTIのスコープであり、要素の検討～実行/促進が地域CE指標の主なスコープである

凡例：色が濃い箇所が現在の注力領域



©copyright Circular Partners

第1章：地域単位でCEに取り組む重要性

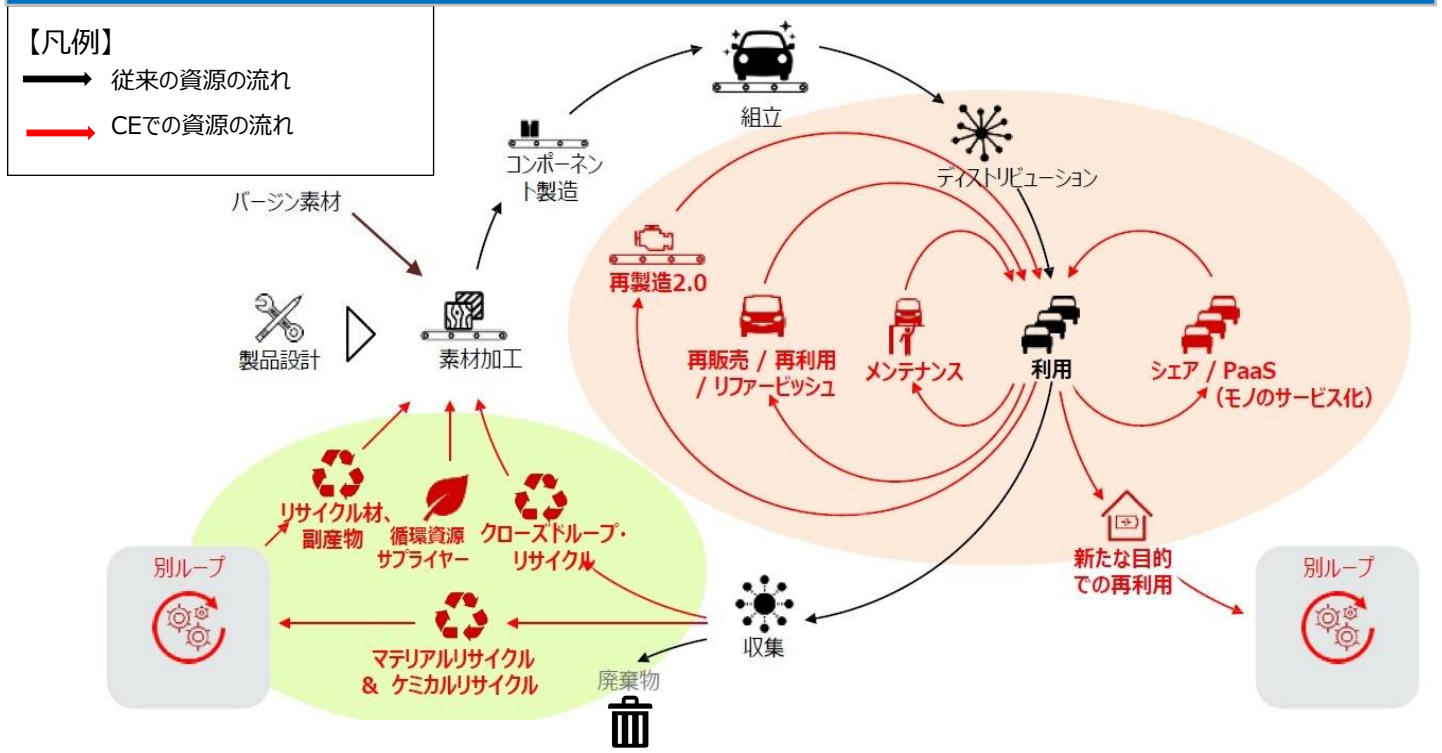
©copyright Circular Partners

サーキュラーエコノミーの概要

サーキュラーエコノミー*1とは、資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、サービスや製品に最大限の付加価値をつけることを目指した新たな経済システムのことである

- 従来の経済システムは、大量生産から大量消費、大量廃棄への一方通行であったため、資源や環境に大きな負荷がかかり、将来的に資源の枯渇などのリスクがあった
- サーキュラーエコノミー*1は、**資源を3R等で循環させ、また長寿命化や新たなビジネスモデルを通じてモノを長く使うことで、環境負荷の低減と、ビジネスの拡大を図ることができる。同時に、地域で資源が循環することで地域の活性化に繋がることが期待される**

従来の資源の流れとCEの資源の流れ（例：自動車産業）



出典：経済産業省 資源エネルギー庁ウェブサイト（成長志向の資源循環経済システム「CE」（前編）どんな課題を解決するの？｜エネこれ｜資源エネルギー庁）

＜補足＞3RとCEの違い

3RはCE実現に向けた取組の1つに位置づけられる

3R（リサイクル・リユース・リデュース）	廃棄物等の再使用、再生利用、熱回収を通じて、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷の低減を目指す取組
サーキュラーエコノミー	製品設計やシェアリング、再販売などの事業活動を含めて資源を有効に活用する経済システム

*1:「サーキュラーエコノミー」は以降、本ガイドラインでは、当該用語の表記は「CE」に統一する（固有名詞・引用は除く）

©copyright Circular Partners

地域におけるCEとは

日本各地でCEの実現に向けた取組が進んでいる

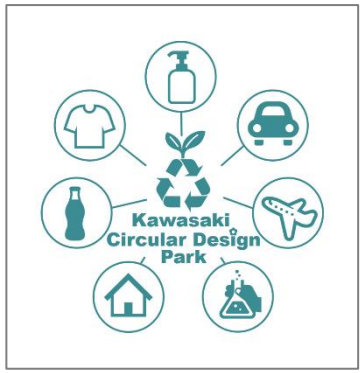
蒲郡市

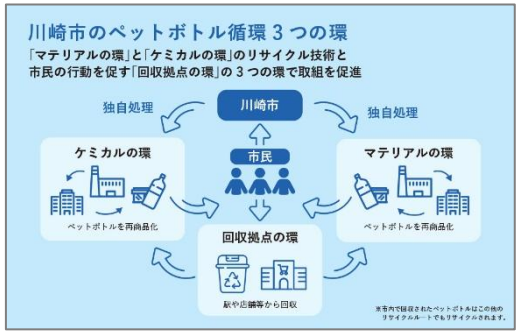
市や地元企業が一体となり、
「サーキュラーシティ蒲郡」の実現に向けた取組

サーキュラーシティ蒲郡 CIRCULAR CITY GAMAGORI

川崎市

コンビナートならではの企業と行政の協業による
「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」の実現に向けた取組





広島県

広島県内外の企業が連携する 海洋プラごみ対策

2050輝くGREEN SEA 瀬戸内ひろしま宣言

神戸市

官民が一体となり取り組む「KOBE PLASTIC NEXT」プロジェクトや、
下水からリンを回収する「こうべ再生リン」等の取組

KOBE PLASTIC NEXT

データソース：CPs公式サイト（Circular Partners 公式サイト｜トップページ）、神戸市公式HP（KOBE PLASTIC NEXT、こうべ再生リン）

©copyright Circular Partners

サーキュラーパートナーズにおける地域循環に関する考え方

地域循環モデル構築WGでは、地域におけるCEの推進が日本の資源循環において重要であると考え、地域のCE推進・社会実装に資する、地域特性に即した地域循環モデルの構築を目指している

サーキュラーパートナーズ（CPs）の概要

発足の背景		■ 廃棄物問題や気候変動問題、資源需要と地政学的なリスク増加により、**資源の効率的・循環的な利用**と**付加価値の最大化**を図るCEの取組が注目を浴びて発足
発足の目的		■ CEへの非連続な移行に当たっては、個自治体・個社ごとの取組だけでの経済合理性確保は困難で、関係主体の連携による協調領域の拡張を目的としてパートナーシップを立ち上げ
対象		■ 産官学すなわち、①企業、業界団体 ②自治体 ③大学、研究機関、関係機関・関係団体
活動内容		■ 関係主体の有機的な連携により、**CEの実現に必要となる施策**について検討する ■ 検討内容を会員中心に社会実装していく
活動内容	ビジョン・ロードマップ検討WG	■ 今後の日本のCEに関する方向性を定めるため、2030年、2050年を見据えた日本全体のCEの実現に向けたビジョンや中長期ロードマップの策定を目指す。また、各製品・各素材別のビジョンや中長期ロードマップの策定も目指す
活動内容	CE情報流通プラットフォーム構築WG	■ 循環に必要となる製品・素材の情報や循環実態の可視化を進めるため、2025年を目途に、データの流通を促す「CE情報流通プラットフォーム」を立ち上げることを目指す
活動内容	地域循環モデル構築WG	■ **地域におけるサーキュラーエコノミーの取組を加速**し、社会実装を推進していくため、**地域特性に応じた「地域循環モデル」の構築**や、地域の取組み状況の効果算定等により、広く展開していくことを目指す。

地域循環モデルの詳細は次頁以降を参照

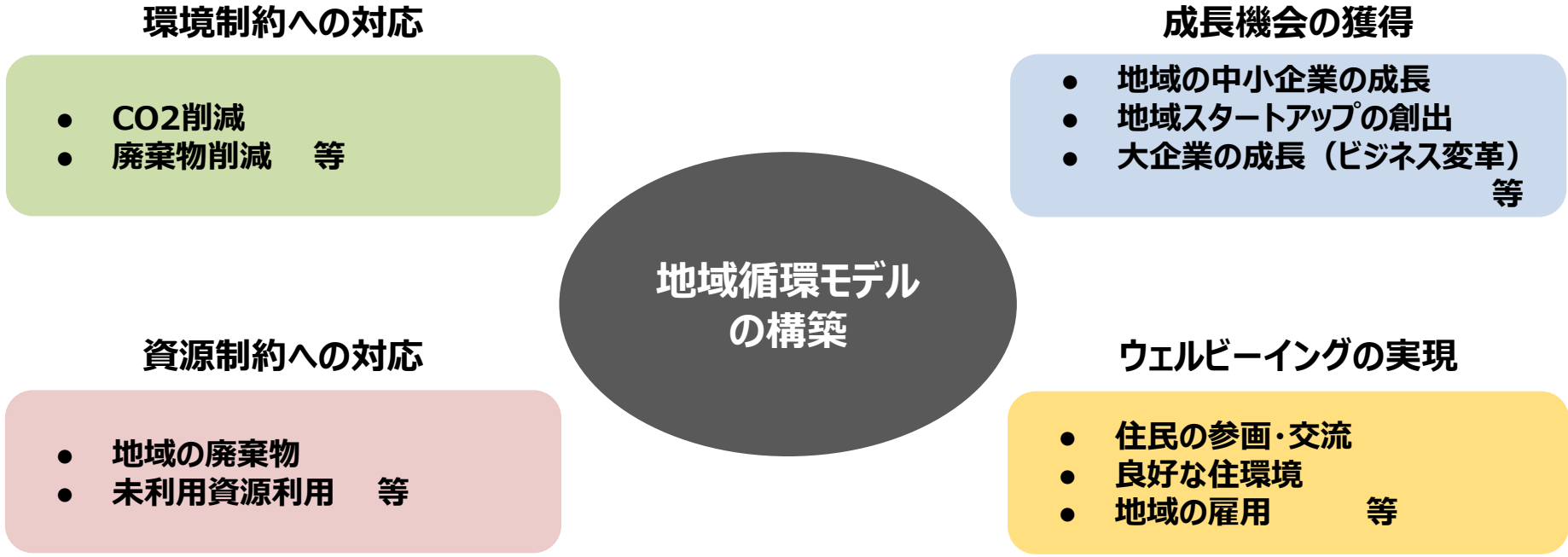
データソース： CPs公式サイト（ Circular Partners 公式サイト｜トップページ）

©copyright Circular Partners

地域循環モデルの構築目的

4つの目的(環境制約への対応、資源制約への対応、成長機会の獲得、ウェルビーイングの実現）を踏まえた『地域循環モデル』を確立することによって、地域でのCEの推進が可能となる

- **地域の特性に合わせた『地域循環モデル』を構築**することで、**環境制約や資源制約への対応**、**成長機会の獲得**、**ウェルビーイングの実現**を目指す
- その際、地域で循環可能な資源は可能な限り地域で循環させ、それが困難なものについては物質が循環する環(わ)を広域化させていくなど、**地域の特性に合わせて最適な規模の資源循環を形成することが重要**



©copyright Circular Partners

地域循環モデルと地域CE指標の関係

地域CE指標で地域の現状やCEの取組状況を定量的に評価し、CEの実現に向けた取組方針案として、各地域に適した地域循環モデルを提供する

地域循環モデル

各製品・素材に対して推奨される**循環の構築方法**、及び**実現するために必要な情報**

（実現に必要な情報：各循環の構築方法による効果、地域循環モデル構築に向けた取組事項・支援策、先進取組事例とそれが実現された地域特性、等）

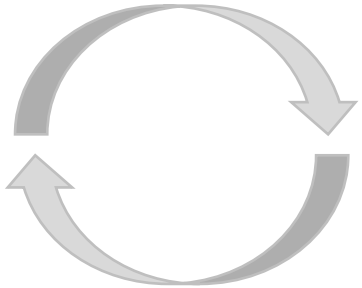
地域社会に推奨される
循環のあり方や実現方法を提供

地域の現状やCEの取組
に対する定量的な評価方法を提供

地域CE指標

地域のCEの現状の立ち位置と、取組状況を客観的に理解できる、
定量的に測り、対応指針の示唆を得られるようにした**評価理論とその項目**

地域循環モデルの実証・実装を
通じて、地域循環モデル・
地域CE指標をブラッシュアップ



地域循環モデルを自治体にて
実証・実装を進め、
地域CE指標で
効果検証を行う

**CEに
関する施策の
実証・実装**

©copyright Circular Partners

第2章：地域循環モデル（情報の一式 概要）
2-1：本資料の立て付け･概要

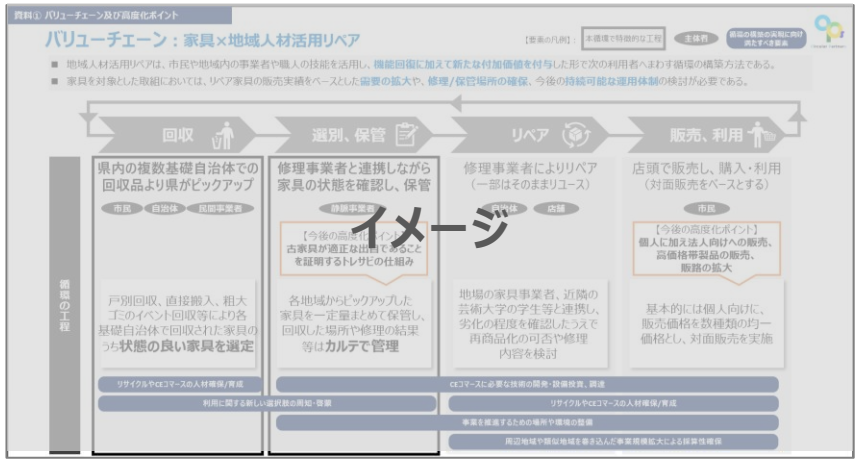
©copyright Circular Partners

2-1. 本資料の立て付け・概要_情報の一式について

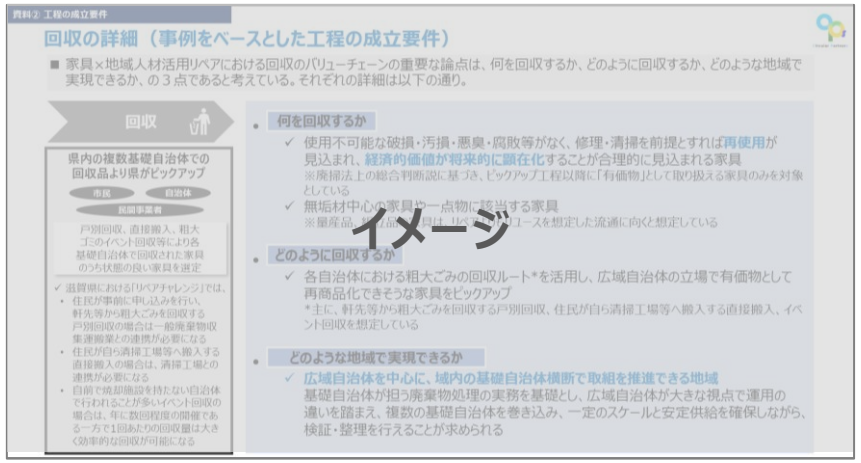
＊循環の構築方法については、p.14-p.15に詳細を記載

「情報の一式」とは、地域でのCEにおける各取組を実現・高度化させるための要諦や必要な検討事項をとりまとめた資料である。製品・素材×循環の構築方法*のパターン別に、基本的には資料①～資料③の３種類で構成されている

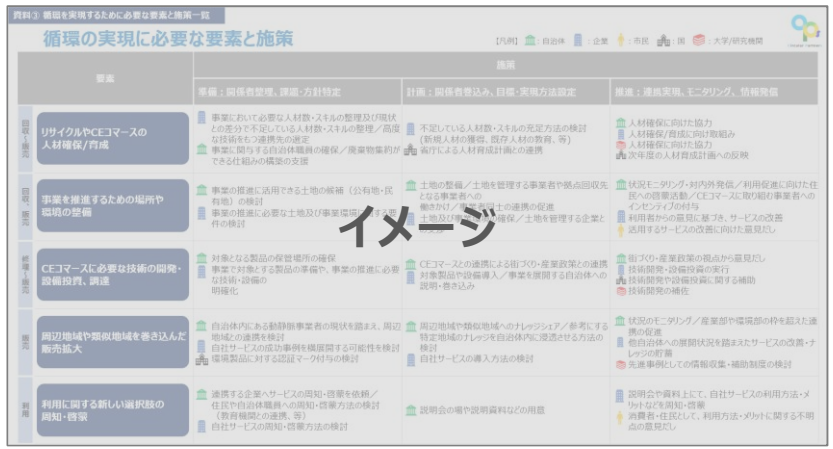
資料① バリューチェーン及び高度化ポイント



資料② 工程の成立要件（技術、距離、ステークホルダー等）



資料③ 循環を実現するために必要な要素と施策一覧



©copyright Circular Partners

2-1. 本資料の立て付け・概要_循環の構築方法 一覧

各取組を推進されている事業者や自治体の皆さまと、ヒアリングや各サブWGの中で具体的に議論を進めながら、循環の構築方法を見直してきた

→再利用（リユース・シェアリング等）

企業製品シェアリング

企業が製品を所有・管理し、複数利用者間で共有することで、**製品の使用効率を高め**廃棄物の発生を抑制する

CLAS "暮らす"を自由に、軽やかに / airCloset / Circloop / KAMAN

地域連携型リユース

※詳細は第５回WGの資料５に掲載

地域拠点もしくはオンラインプラットフォーム等を通じて新たな利用者を探索し、**環境負荷を低減しつつ製品が再利用**されることで資源の有効活用と廃棄物削減を図る

ECOMMIT / mercari

地域人材活用リペア

市民、地域内の事業者や専門技能を有する人材を活用し、機能回復に加えて**新たな付加価値を付与**した形で次の利用者へまわす

REPAIR-CHALLENGE SHIGA-PREF CE PILOT PROJECT / YOURMYSTAR

企業製品リマニュ

企業が、使用済み製品を消費者から直接あるいは小売店を介して回収し、**分解・清掃等のうえ新品同等の性能・品質に戻し**再度販売する

RICOH

→再生利用（リサイクル）

地域資源活用リサイクル

※詳細は第５回WGの資料５に掲載

域内で排出される廃棄物の特性や、回収ルート・設備を活かし、**地域内で循環することの価値も付与**して再生・販売する

長井市 Nagai City / 亀岡市 KAMEOKA CITY

市民詳細分別リサイクル

市民が詳細な分別を家庭やステーションで予め行うことで、地域内の**設備投資や事故リスクを最小限に資源価値を高めて**需要側につなげる

KOBE / 薩摩川内 SDGsチャレンジ

近隣地域連携リサイクル

単独の基礎自治体内での処理が難しい廃棄物を近隣の中核的な自治体や設備に集約することで、**スケールメリットも得ながら地域一帯の循環率を高める**

埼玉県 / Circular Park 九州 / 松田産業株式会社 MATSUDA SANGYO CO.,LTD.

大規模リサイクル

産業集積地で先端の技術も活用して、廃棄物を最適に処理するサプライチェーンを構築することで、**再生材の品質と量を確保**する

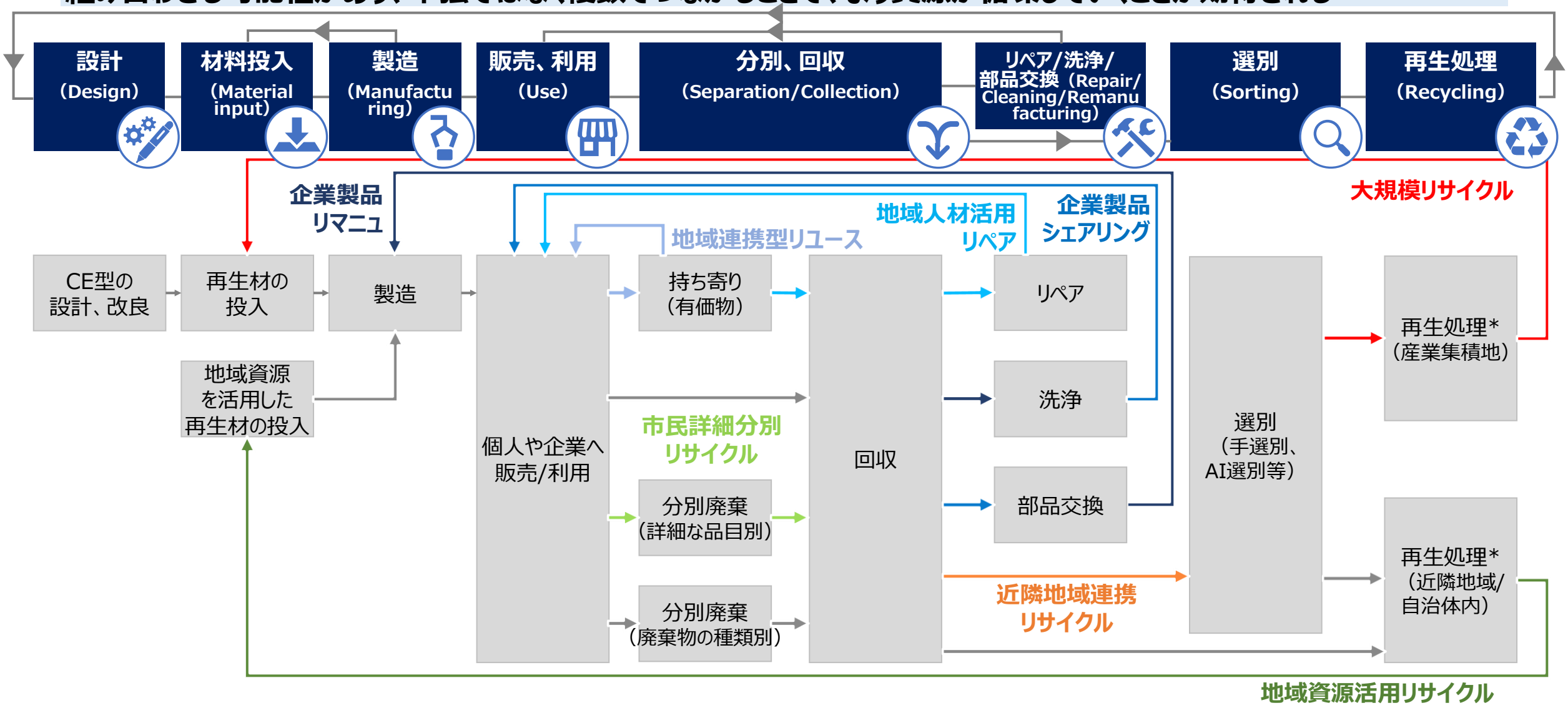
Colors, Future! いろいろって、未来。 川崎市

©copyright Circular Partners

（参照）循環の構築方法 イメージ

*脱墨やアルカリ洗浄等、再生前の前処理も含む

各循環の構築方法における特徴的な箇所を色付けしているが、各循環の構築方法はモジュールのような形で組み合わさる可能性があり、単独ではなく複数でつながることで、より資源が循環していくことが期待される



©copyright Circular Partners

2-1. 本資料の立て付け・概要

：高度化や横展開に向け議論できる成熟度にある
：サブWGでの個別議論を進めている
：CPs会員にて、地域WG外で実証事業が進んでいる

Circular Partners

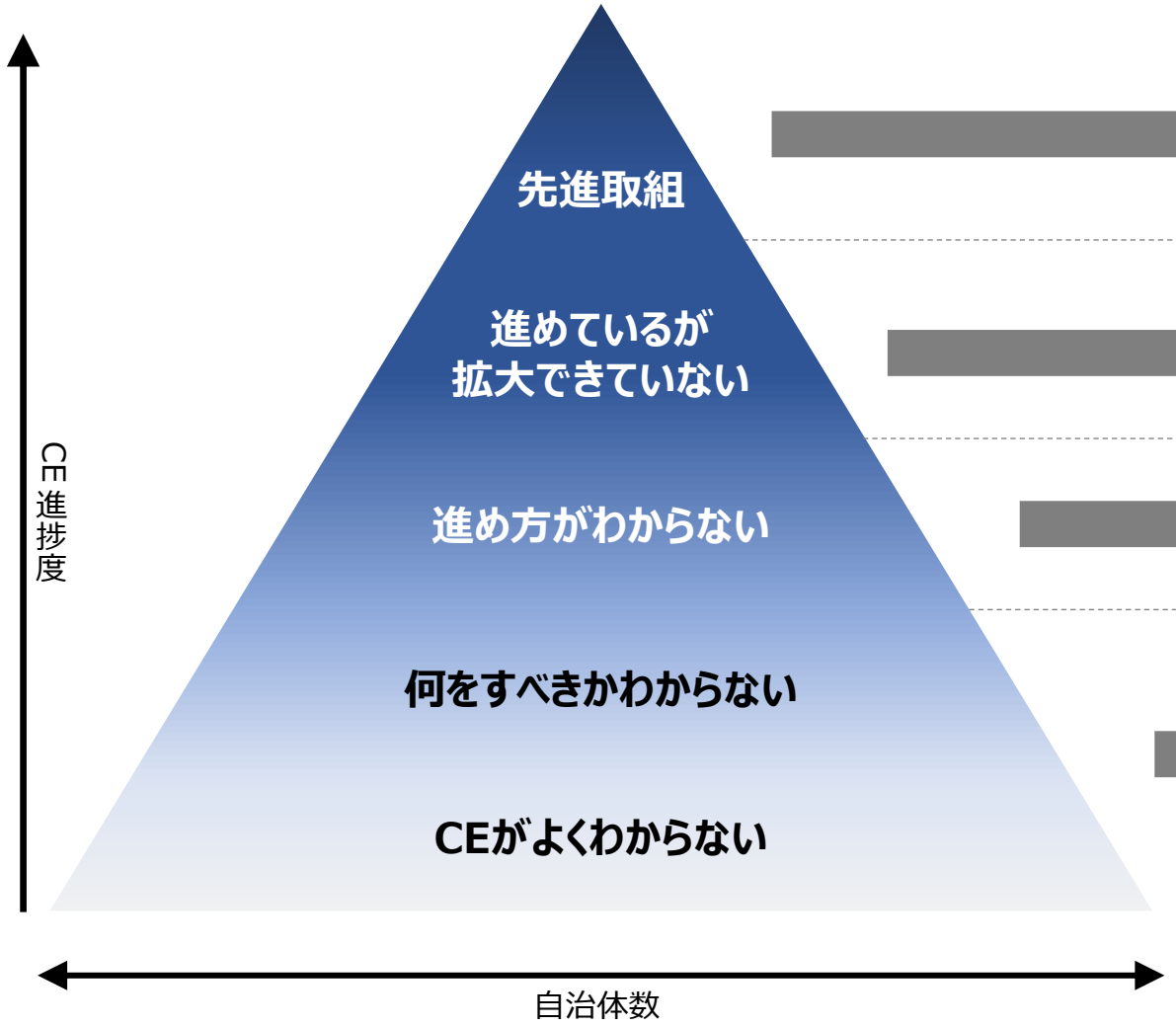
各循環を実現するための手法は「情報の一式」として重要性の高い製品・素材×循環の構築方法から作成を進めており、今後はそれらを活用、アップデートしながら、各取組の更なる高度化や横展開を図っていく

製品・素材のカテゴリ			循環の構築方法							
			再利用（リユース・シェアリング、等）				再生利用（リサイクル）			
			企業製品シェアリング	地域連携型リユース	地域人材活用リペア	企業製品リマニュ	地域資源活用リサイクル	市民詳細分別リサイクル	近隣地域連携リサイクル	大規模リサイクル
製品	日用品 例：日用雑貨、小型家電、等		プラ製品×企業製品シェアリング	薩摩川内市×ECOMMIT（衣類、個別実証）		※自治体は模索中（家電）		プラスチック×市民詳細分別リサイクル		
製品	耐久品 例：家具、家電、等				家具×地域人材活用リペア					
素材	高価格 例：鉄、リチウムイオン二次電池、アルミ、等						那須塩原市×JFE、リバー（金属類、環境省）		リチウム電池×近隣地域連携リサイクル	
素材	低価格	重量 例：食品残渣、廃材、等			川崎市×HUB STOCK（建材、環境省）		福岡市×Value way（食品残渣、環境省・座組②#1）	蒲郡市×加山興業（おむつ、環境省）		
素材	低価格	軽量 例：プラ、等			福山市×エコログ・リサイクリング・ジャパン（衣類、環境省）		富岡市×TBM（産廃プラ、環境省） 福井県×CYKLUS（繊維、環境省）	石巻市×花王（一廃プラ、環境省）	プラスチック×近隣地域連携/大規模リサイクル	

©copyright Circular Partners
（参照）環境省における令和７年度地域の資源循環促進支援事業「循環型ビジネスモデル実証事業」公募採択結果一覧：https://www.env.go.jp/content/000327200.pdf

（参照）情報の一式の活用方法

情報の一式から、自地域に適した循環の構築方法を見つけ参照頂きたい。また取組高度化に向けた実証や関係者との連携促進、取組普及に向けた効果や実現方法の確立は、CPsと連携し、ノウハウをフィードバック頂きたい



情報の一式の作成をCPsと連携して行い、
取り組みの効果*1や実現方法の確立、および
他の地域への事業の展開・浸透を加速

CPsと連携し実証やステークホルダーとの連携を
進めて、効果と持続性ある事業を確立

情報の一式と地域CE指標・ツール*2を活用して、
適した取組を策定 ※環境省　モデル実証事業と連携

地域CE指標・ツールを活用して、
地域特性や適した循環の構築手法を特定

環境省における自治体CE診断・ビジョン作成も活用

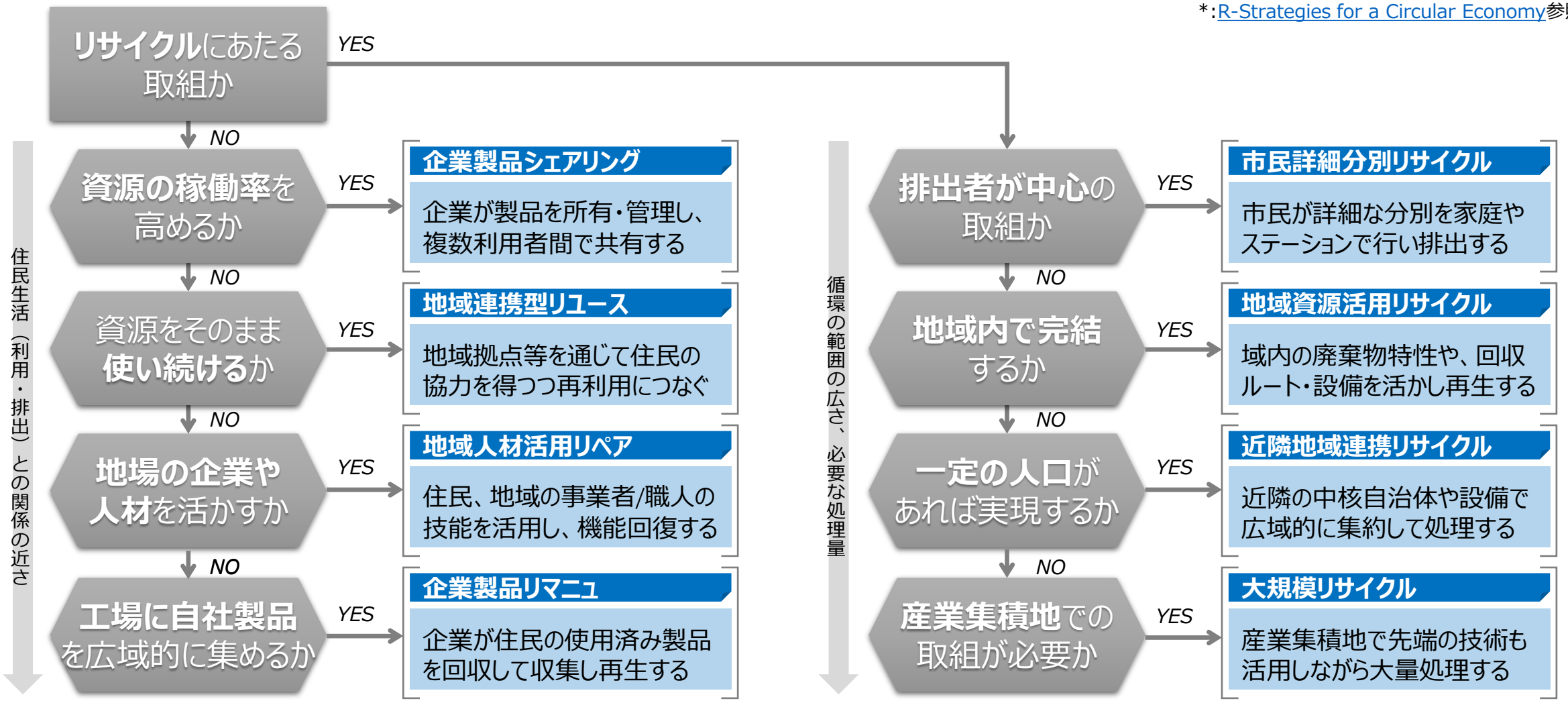
※1：効果＝CPs地域循環モデル構築WGが掲げる4つの目的
（環境制約への対応、資源制約への対応、成長機会の獲得、well-beingの実現）
※2：地域CE指標・ツールは2026年中の公開を予定

©copyright Circular Partners

（参照）循環の構築方法の特徴

循環の構築方法は、大きく再利用と再生利用（リサイクル）に大別され、住民生活（利用・排出）との関係の近さ*や、循環の範囲の広さ、必要な処理量等での取組に分けられる。自地域に適した循環の構築方法を見つけ、参照頂きたい

*:R-Strategies for a Circular Economy参照



©copyright Circular Partners

情報の一式 一覧

「情報の一式 一覧」はツール内に掲載

（※CPs会員限定で公開中）

©copyright Circular Partners

第3章：地域CE指標

- 3-1：概要
- 3-2：目的
- 3-3：地域CE指標の考え方
- 3-4：主な指標項目（大項目･中項目）
- 3-5：地域CE指標の活用方法
- 参考1：地域CE指標一覧
- 参考2：地域CE指標をめぐる動向
- 参考3：GCP（Global Circularity Protocol for Business）とは

©copyright Circular Partners

3-1. 概要

地域CE指標は、自治体の現状把握と今後の方針検討、取組効果の定量把握と発信を目的に、国内外の標準指標等を踏まえて策定している

地域CE 指標の策定	概要	参考 ※評価ツールの説明書より一部抜粋
指標を策定する**目的**	• 対象の**自治体の現状（立ち位置・傾向）**を理解し、今後の方針を検討すること • **取組による効果**を定量的に測定し、他部署、住民、企業等へ発信すること	• 地域CE指標の目的
策定方針	• 国内外で**標準とされる**CE指標と、国内の地域のポテンシャルを把握する指標（＝地域指標）を抽出・整理 • 上記の整理を踏まえ、４つの目的（**資源制約への対応・環境制約への対応・成長機会の獲得・ウェルビーイングの実現**）に関連する**計230個の指標**を策定 • そのうち、統計情報として**データが取得可能な189指標**を選定	• 地域CE指標の考え方 • 指標一覧

©copyright Circular Partners

3-2. 目的

地域CE指標を策定した目的は、地域の現状把握、取組の効果検証や進捗の可視化・発信など、地域のCEを統合的に評価できるKPIを設定し、地域におけるCEの推進を支援することである

指標活用前

CEに関する取組を実施したいが、**地域の特徴や現状が分からず、どのような取組を実施すればよいか分からない**

事業者

CEについて取組を実施したいが、**取るべき方向性が分からない**

何かCEについて取組を実施したいが、**どの地域にて進めたらいいか分からない**

自治体

実証・取組を進めているが、**効果検証と改善に向けた検討ができていない**

自治体

実証について、**データが乱立しており、何を見て効果検証し、改善すればよいのか分からない**

回収量 Xt
リサイクル量 Xt
コスト X円
CO2 XtCO2

CEに継続的に取り組んでいるが**経済効果等への経年変化が測れていない**
外部発信ができず、地域住民や自治体内部での理解が得づらい

自治体

実証を行ったが、**取組によってどのように経済効果があったのか分からない。**
外部発信ができない、、、

指標活用後

地域CE指標により、**地域の状況・特徴が定量で把握**できる
他の自治体・事業者と**同一定義で比較・参照でき、優先度と目標を設定**できる

近隣自治体と連携して、プラスチックのリサイクル率を上げることが我々には適していそうだ

効果測定ができることで施策ごとに**基準・目標・KPIを設定することが容易**になり、
改善点の検討・PDCAサイクルに基づく施策の実施に繋がる

地域CE指標により、**進捗を定量化して提示することができ**、
外部発信及び予算獲得において根拠となる

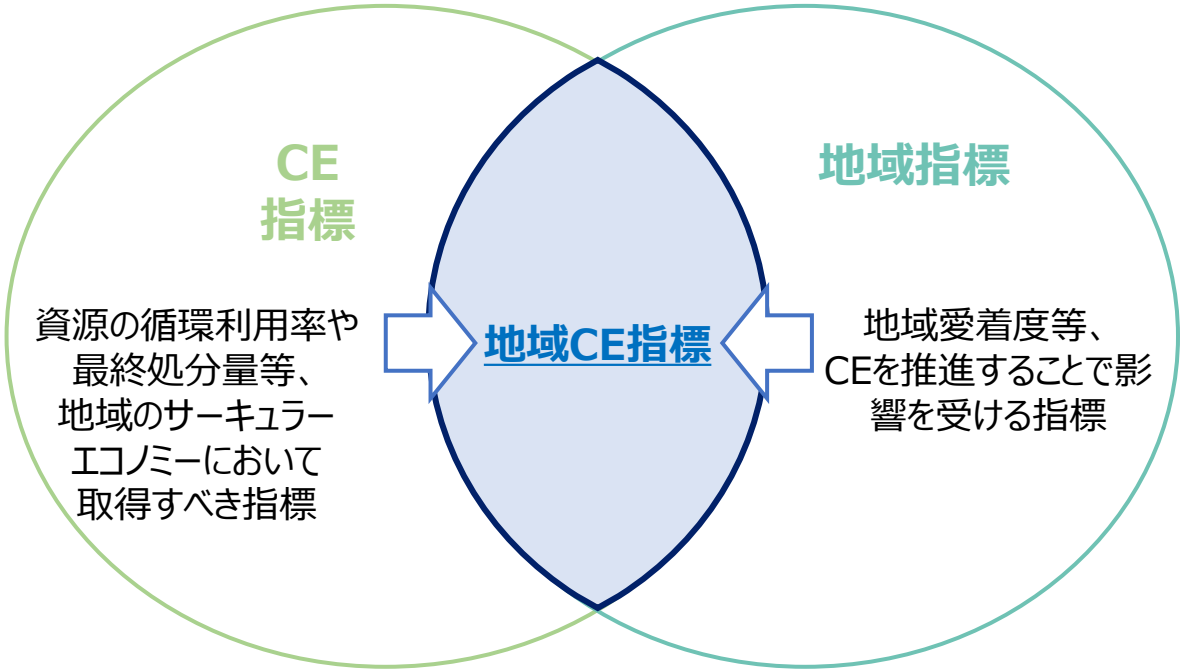
地域住民
地域住民からの理解を得られ、より協力を得られるようになる

自治体内部
効果が可視化され経年変化を把握することで予算獲得に寄与する

©copyright Circular Partners

3-3. 地域CE指標の考え方

地域CE指標は、国内外のCE指標と地域指標を基に策定されており、地域におけるCEを4つの目的から評価する指標である

地域CE指標とは	■ 「環境制約への対応」、「資源制約への対応」、「成長機会の獲得」、「ウェルビーイングの実現」の**４つの目的から地域のCEを統合的に評価する指標** ■ 地域のCEを測るために必要な指標を、**国内外のCE指標**と、**国内の地域のポテンシャルを把握する指標（＝地域指標）**から整理した指標
地域CE指標の考え方	

©copyright Circular Partners

【補足】CE指標と地域指標とは

	海外におけるCE指標	国内におけるCE/地域指標
参照文献	■ **WBCSD「Global Circularity Protocol for business (GCP)」** ➢ 時期：2025年 ➢ 内容：標準化された手順・指標により循環性の測定・改善・発信を支援する、企業向けの循環性評価の実務プロトコル ■ **WBCSD「CTI v4.0」** ➢ 時期：2020年 ➢ 内容：企業が自社のCEに関する状況を把握分析し、改善していくための共通指標とガイダンス ■ **UNEP「Circular Economy: From Indicators and Data to Policy-making」** ➢ 時期：2024年 ➢ 内容：CEの測定ガイドラインに基づく中核指標及び、政策モニタリングへの活用方法と各国事例を示す報告書 ■ **UNECE「Guidelines for Measuring Circular Economy」** ➢ 時期：2024年 ➢ 内容：CEの定義・枠組みとSEEA連携に基づく調和中核指標19と補足指標を示す測定に関するガイドライン ■ **WBCSD「Circular Transition Indicators (CTI) Social Impact guide」** ➢ 時期：2025年 ➢ 内容：公正な移行の視点で循環戦略の社会的影響の評価・改善に関するガイドライン ■ **OECD「The Circular Economy in Cities and Regions of the European Union」** ➢ 時期：2025年 ➢ 内容：循環経済の概要とEUにおける移行の必要性・効果を、自治体の役割と具体データと共に示したレポート ※EU等の特定地域におけるCE指標に関する文献も参照	**＜地域指標＞** ■ **デジタル庁「地域幸福度指標」** ➢ 時期：2023年 ➢ 内容：地域住民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-being)」を数値化・可視化する指標 ■ **環境省「地域循環共生圏」** ➢ 時期：2018年 ➢ 内容：全市区町村ごとの統一的に入手可能なデータを客観的指標として整備 ■ **総務省「統計でみる市区町村のすがた」** ➢ 時期：2024年 ➢ 内容：日本の全市区町村ごとの統一的に入手可能な様々なデータを掲載（人口・経済・行政・居住等） ■ **国連環境計画「Inclusive Wealth Report 2023」（新国富論）** ➢ 時期：2023年 ➢ 内容：自然資本、人的資本、人工資本を統合した新国富が、国や世界の開発と経済の進歩を評価するための合理的な指標として提示 **＜CE指標＞** ■ **経済産業省・CPs「サーキュラーパートナーズ定量目標設定のためのガイドライン」** ➢ 時期：2024年 ➢ 内容：CPsのビジョン・ロードマップ検討WGにて策定した、CPs会員企業におけるCE目標の設定に関するステップ・参考資料の把握のためのガイドライン ■ **「第五次循環型社会形成推進基本計画」** ➢ 時期：2024年 ➢ 内容：循環型社会の全体像を把握・向上するための物質フロー指標と取組の進展度を計測・評価するための取組指標 ■ **環境省「CEに係るサステナブル・ファイナンス」** ➢ 時期：2021年 ➢ 内容：企業がCEに係る自らの価値観やビジネスモデル、戦略、ガバナンス等を統合的に投資家に伝えるための指標 ※国内外の各都市におけるCE指標に関する文献も参照

出典：WBCSD「CTI v4.0」や環境省「CEに係るサステナブル・ファイナンス」、総務省「統計でみる市区町村のすがた」等

©copyright Circular Partners

3-4.主な指標項目（大項目・中項目）

前項の考え方に沿ってデータ取得について整理した結果、大/中項目で46個の指標を地域CE指標として定義した（なお、一段細分化した「小項目」まで合わせると、全体で230指標を対象としている）

※グレーアウトは統計データの取得ができない指標

視点	No.	大項目	中項目	
資源制約への対応	1	入口側の循環利用率＜%＞		
	2		循環資源の利用量・率 <t・%>	
	3		(地域GDP当たり)利用資源量 <t>	
	4	出口側の循環利用率＜%＞		
	5		総廃棄物量<t>	
	6			一般廃棄物量 <t>
	7			産業廃棄物量 <t>
	8		再資源化量 <t>	
	9		リファブ量<t>	
	10		リユース量 <t>	
	11		リペア量<t>	
	12		生物分解化量<t>	
	13		廃棄物処理施設取扱量<t>	
	14		廃棄物処理施設数<個>	
	15	資源生産性<円/t>		
	16		天然資源投入量<t>	
	17		地域GDP <円>	
環境制約への対応	18	最終処分量<t>		
	19		一般廃棄物最終処分量<t>	
	20			直接最終処分量<t>
	21			焼却残渣量<t>
	22			処理残渣量<t>
	23		産業廃棄物最終処分量<t>	

視点	No.	大項目	中項目	
環境制約への対応	24	エネルギー使用量<TJ>		
	25		エネルギー自給率	
	26		再生エネルギー導入量・率<TJ・%>	
	27		化石燃料などの導入量・率<TJ・%>	
	28	CO2排出量<tCO2>		
	29		削減量<tCO2>	
	30	エコロジカルフットプリント<gha>		
	31	自然環境汚染量<t>		
	32	水の循環率＜%＞		
成長機会の獲得	33	CE関連売上高<円>		
	34	CE関連処理費<円>		
	35		廃棄物処理費<円>	
	36		リサイクル費<円>	
	37	CE関連雇用者数＜人＞		
	38	CE関連への投資額<円>		
	39	CE関連事業の地域経済付加価値<円>		
	40		CE関連事業の従業員可処分所得 <円>	
	41		CE関連事業の地方税<円>	
	42		CE関連事業の地域事業者純利益<円>	
	43	自治体でのCE取組度（目標値等） <->		
ウェルビーイングの実現	44	地域コミュニティの形成<->		
	45	環境満足度<->		
	46		CEへの満足度<->	

©copyright Circular Partners

3-5.地域CE指標の活用方法：目的別の整理

地域CE指標指標は4つの目的に分類されており、自治体のCEの取組目的や重要視している点に応じて、該当する分類から必要な指標を確認し、対外説明等に活用することができる

地域におけるCEを推進するために、資源制約への対応、環境制約への対応、成長機会の獲得、ウェルビーイングの実現という4つの目的を踏まえた「地域循環モデル」の確立を目指す

本指標は、地域のサーキュラーエコノミーの実現に向けたKPI設定や、進捗管理に活用することを想定しているため、4つの目的に沿って整理を実施

指標の分類	指標例	CE施策における主な確認ポイント	活用例
①資源制約への対応	循環資源の利用量、再資源化量、一般廃棄物、リユース量　等	• CE取組が資源投入の抑制や廃棄物削減につながっているかを確認する	**再資源化が進んでいない製品・素材について、分別回収の強化や再資源化手法の導入が可能か検討**する
②環境制約への対応	再生エネルギー導入量・率、CO2排出量、水の循環率　等	• CE取組がCO2削減や環境負荷の低減に寄与しているか、自治体の環境観点での改善につながっているかを確認する	**CO2削減を目標として置く場合に、関連する指標の現状値を把握**し、取組による環境への影響を確認する
③成長機会の獲得	CE関連売上高、廃棄物処理費、リサイクル費　等	• CE取組が地域経済付加価値の向上等、経済活性化につながっているかを確認する	廃棄物処理費のうち、**リサイクル費や有価物売却による収益化の余地がある品目について、資源循環型事業への転換や資源化ルートの確保を検討**する
④ウェルビーイングの実現	地域コミュニティの形成、環境満足度、CEへの満足度	• CE施策が生活環境の改善やコミュニティへの愛着等、ウェルビーイングの向上につながっているかを確認する	地域環境や地域への愛着の向上を重視する取組における、**回収拠点整備や住民参加型取組の効果について、長期的な変化を確認**する

©copyright Circular Partners

3-5.地域CE指標の活用方法：指標間の階層構造と活用イメージ

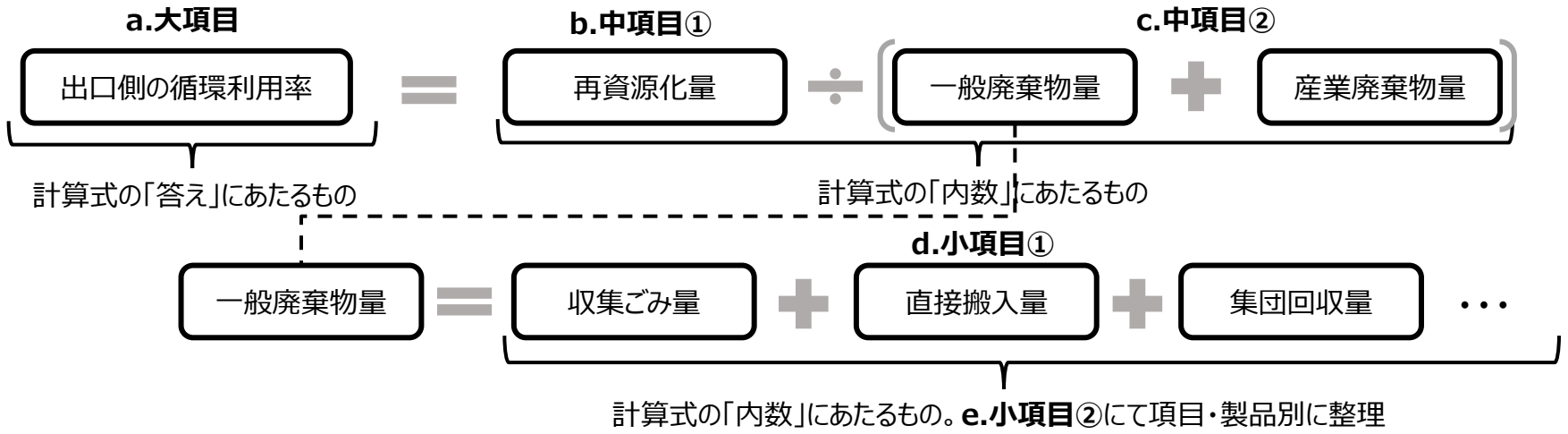
地域CE指標は指標間の階層構造を踏まえて大項目、中項目①、中項目②、小項目①、小項目②の5階層で整理しており、指標の粒度によって確認できる内容が異なるため、検討内容に合わせて段階的に確認することで有効に活用できる

計算式における指標間の階層構造

例）

4つの目的

資源制約への対応



階層ごとの活用方法

階層	位置づけ	主な活用場面	活用例
大項目	自治体・地域全体の**マクロな状況を示す指標**	• **地域全体としてCEがどの程度進んでいるか**概況の把握 • CE取組状況に関する対外的な説明	自治体全体のCEの進捗を俯瞰し、**「資源」「環境」「経済性」「ウェルビーイング」のうち、どの領域を優先課題とするか**を整理し、次年度方針の設定等に活用する
内数 ↓ **中項目①/②**	大項目の内数であり、**分野別・テーマ別の状況を示す**指標	• **どの分野・テーマに課題や特徴があるか**の確認・把握 • **重点領域の特定**、優先順位付け	「資源」の領域において、「排出抑制を優先すべきか」「再資源化を強化すべきか」「最終処分対策を行うべきか」等の**分野を判断**する
内数 ↓ **小項目①/②**	中項目の内数であり、**製品・素材別など、より具体的な実態を示す**指標	• **課題の要因や素材・製品における改善余地がどこにあるか**の検討 • **個別施策における進捗**の確認・改善	「再資源化の強化」のうち、紙類、金属類、プラスチック等、**どの製品・素材が特に課題であるかを把握し、具体策を検討**する

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
1	入口側の循環利用率<%>					利用資源量における、循環資源を利用している割合を把握するため [入口側の循環利用率＝循環利用量÷（循環利用量＋天然資源等投入量）]
2		循環資源の利用量 <t>				入口側の循環利用率の内数として、循環資源の利用量を把握するため
3		利用資源量 <t>				入口側の循環利用率の内数として、総資源の利用量を把握するため
4	出口側の循環利用率<%>					総廃棄物量における、循環資源を利用している割合を把握するため [出口側の循環利用率＝（一般廃棄物の再資源化量＋産業廃棄物の再資源化量）÷（一般廃棄物量＋産業廃棄物量）]
5		総廃棄物量<t>				出口側の循環利用率の内数として、発生している総廃棄物量を把握するため
6			一般廃棄物量<t>			出口側の循環利用率の内数として、発生している一般廃棄物量を把握するため
6-1				収集ごみ量<t>		一般廃棄物量の内数として、収集ごみ量を把握するため
6-1-1					混合ごみ<t>	収集ごみ量を項目別に把握するため
6-1-2					可燃ごみ<t>	
6-1-3					不燃ごみ<t>	
6-1-4					資源ごみ<t>	
6-1-5					その他<t>	
6-1-6					粗大ごみ<t>	
6-2				直接搬入量<t>		一般廃棄物量の内数として、直接搬入量を把握するため
6-2-1					混合ごみ<t>	直接搬入量を項目別に把握するため
6-2-2					可燃ごみ<t>	
6-2-3					不燃ごみ<t>	
6-2-4					資源ごみ<t>	
6-2-5					その他<t>	
6-2-6					粗大ごみ<t>	

＊1:環境省が公開している環境白書にて、入口の循環率は共に循環利用量を用いて算出されていることから本指標においても入口の循環率の算出に当たり、循環資源の利用量を採用

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
6-3	出口側の循環利用率<%>	総廃棄物量<t>	一般廃棄物量<t>	集団回収量<t>		一般廃棄物量の内数として、集団回収量を把握するため
6-3-1					紙類<t>	集団回収量を項目別に把握するため
6-3-2					紙パック<t>	
6-3-3					紙製容器包装<t>	
6-3-4					金属類<t>	
6-3-5					ガラス類<t>	
6-3-6					ペットボトル<t>	
6-3-7					白色トレイ<t>	
6-3-8					容器包装プラスチック<t>	
6-3-9					プラスチック類<t>	
6-3-10					布類<t>	
6-3-11					肥料<t>	
6-3-12					飼料<t>	
6-3-13					溶融スラグ<t>	
6-3-14					固形燃料<t>	
6-3-15					燃料<t>	
6-3-16					焼却灰・飛灰のセメント原料化<t>	
6-3-17					セメント等への直接投入<t>	
6-3-18					飛灰の山元還元<t>	
6-3-19					廃食用油（BDF)<t>	
6-3-20					その他<t>	
6-4				不法投棄量<t>		一般廃棄物量の内数として、不法投棄量を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
7	出口側の循環利用率<%>	総廃棄物量<t>	産業廃棄物量 <t>			出口側の循環利用率の内数として、発生している産業廃棄物量を把握するため
7-1				燃え殻<t>		産業廃棄物量を項目別に把握するため [各小項目の排出量＝各産業の燃え殻の排出量原単位×市区町村の各産業の生産額・出荷額]
7-2				汚泥<t>		
7-3				廃油<t>		
7-4				廃酸<t>		
7-5				廃アルカリ<t>		
7-6				廃プラスチック類<t>		
7-7				紙くず<t>		
7-8				木くず<t>		
7-9				繊維くず<t>		
7-10				動植物性残渣<t>		
7-11				動物系固形不要物<t>		
7-12				ゴムくず<t>		
7-13				金属くず<t>		
7-14				ガラスくず及び陶磁器くず<t>		
7-15				鉱さい<t>		
7-16				がれき類<t>		
7-17				動物のふん尿<t>		
7-18				動物の死体<t>		
7-19				ばいじん<t>		

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
8	出口側の循環利用率<%>	再資源化量<t>				出口側の循環利用率の内数として、再資源化量を把握するため
8-0-1				紙類（紙パック、紙製容器包装を除く）		再資源化量を項目別に把握するため [各項目の再資源化量＝直接資源化量＋施設資源化量＋集団回収量]
8-0-2				紙パック		
8-0-3				紙製容器包装		
8-0-4				金属類		
8-0-5				ガラス類		
8-0-6				ペットボトル		
8-0-7				白色トレイ		
8-0-8				容器包装プラスチック（白色トレイを除く）		
8-0-9				製品プラスチック		
8-0-10				その他プラスチック類		
8-0-11				布類		
8-0-12				肥料		
8-0-13				飼料		
8-0-14				溶融スラグ		
8-0-15				固形燃料（RDF, RPF）		
8-0-16				燃料（固形燃料を除く）		
8-0-17				焼却灰・飛灰のセメント原料化		
8-0-18				セメント等への直接投入		
8-0-19				飛灰の山元還元		
8-0-20				廃食用油(BDF)+(BDF以外)		
8-0-21				その他		

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
8-1	出口側の循環利用率<%>	再資源化量<t>	マテリアルリサイクル量			リサイクル量の内数として、どの程度マテリアルリサイクルされているのかを把握するため
8-2			ケミカルリサイクル量			リサイクル量の内数として、どの程度ケミカルリサイクルされているのかを把握するため
8-3			サーマルリサイクル量			リサイクル量の内数として、どの程度サーマルリサイクルされているのかを把握するため
9		リファブ量<t>				出口側の循環利用率の内数として、リファブ量を把握するため
10		リユース量<t>				出口側の循環利用率の内数として、リユース量を把握するため
11		リペア量<t>				出口側の循環利用率の内数として、リペア量を把握するため
12		生物分解化量<t>				出口側の循環利用率の内数として、生物分解化量を把握するため
13	出口側の循環利用率<%>	廃棄物処理施設取扱量<t>				出口側の循環利用率に影響する指標の1つとして、廃棄物処理施設にて取り扱っている量を把握するため
13-1				焼却施設取扱量<t>		廃棄物処理施設数を項目別に把握するため [一般廃棄物の焼却施設のうち、年間処理量が0tより大きい（実際に稼働している）施設の取扱量]
13-2				再資源化施設取扱量<t>		
13-3				ごみ肥料化施設取扱量<t>		
13-4				メタン化施設取扱量<t>		
13-5				ごみ燃料化施設取扱量<t>		
13-6				粗大ごみ処理施設取扱量<t>		
13-7				その他施設取扱量<t>		
13-8				リペア・リユース施設取扱量<t>		

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
14		廃棄物処理施設数<個>				出口側の循環利用率に影響する指標の1つとして、廃棄物処理施設数を把握するため
14-1				焼却施設数<個>		廃棄物処理施設数を項目別に把握するため [一般廃棄物の焼却施設のうち、年間処理量が0tより大きい（実際に稼働している）施設数]
14-2				再資源化施設数<個>		
14-3				ごみ肥料化施設数<個>		
14-4				メタン化施設数<個>		
14-5				ごみ燃料化施設数<個>		
14-6				粗大ごみ処理施設数<個>		
14-7				その他施設数<個>		
14-8				リペア・リユース施設数<個>		
15	資源生産性<円/t>					自治体における資源の有効活用に係る状況を把握するため [資源生産性＝地域GDP÷利用資源量]
16		天然資源投入量<t>				資源生産性の内数として、総資源の利用量を把握するため
17		地域GDP<円>				資源生産性の内数として、域内で生産された財やサービスの総額を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：環境制約への対応に関する指標(32個)

②環境制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
18	最終処分量<t>					自治体における最終処分（埋立・焼却残渣）への依存状況を把握するため
19		一般廃棄物最終処分量<t>				最終処分量の内数として、一般廃棄物の最終処分量を把握するため
19-0-1				焼却率<%>		自治体の廃棄物処理における焼却率を把握するため [焼却率（%）＝直接焼却量÷一般廃棄物ごみ処理量]
19-0-2				埋立率<%>		自治体の廃棄物処理における埋立率を把握するため [埋立率（%）＝（各施設全体容量の合計（m3）－各施設残余容量の合計（m3））÷各施設全体容量の合計（m3）× 100]
19-0-3				残余容量<㎥>		自治体における最終処分場の受入れ余力とひっ迫リスクを把握するため
19-0-4				残余年数<年>		自治体における最終処分場の稼働可能残年数を把握するため [市区町村別の最終処分場残余年数＝市区町村の施設別残余容量の合計値（m3）÷市区町村の施設別年間埋立容量（m3/年）の合計値]
19-0-5				最終処分場数<個>		自治体における最終処分に係るインフラの整備状況を把握するため [最終処分場のうち、残余容量が0m3より大きい処分場の数]
19-0-6				最終処分場埋立容量<㎥>		自治体における最終処分に係るインフラの受入れ能力を把握するため
19-0-7				新規最終処分場数<個>		最終処分に係るインフラの新規導入の状況を把握するため
20			直接最終処分量<t>			一般廃棄物最終処分量の内数として、直接最終処分量を把握するため
21			焼却残渣量<t>			一般廃棄物最終処分量の内数として、焼却からの残渣量を把握するため
22			処理残渣量<t>			一般廃棄物最終処分量の内数として、中間処理からの残渣量を把握するため
23		産業廃棄物最終処分量<t>				最終処分量の内数として、産業廃棄物の最終処分量を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：環境制約への対応に関する指標(32個)

②環境制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
24	エネルギー使用量<TJ>					自治体におけるエネルギーの使用量を把握するため
25		エネルギー自給率<%>				エネルギー使用量の内数として、自治体にて自給できている割合を把握するため
26		再生エネルギー導入量・率<TJ・%>				エネルギー使用量の内数として、再生エネルギー導入量・率を把握するため
26-1		再生エネルギー発電量・率<TJ・%>				エネルギー使用量の内数として、再生エネルギー発電量・率を把握するため
26-2		再生エネルギー資源利用量・率<TJ・%>				エネルギー使用量の内数として、再生エネルギー資源利用量・率を把握するため
27		化石燃料などの導入量・率<TJ・%>				エネルギー使用量の内数として、化石燃料などの導入量・率を把握するため
27-1		化石燃料などの発電量・率<TJ・%>				エネルギー使用量の内数として、化石燃料などの発電量・率を把握するため
27-2		化石燃料などの資源利用量・率<TJ・%>				エネルギー使用量の内数として、化石燃料などの資源利用量・率を把握するため
28	CO2排出量<tCO2>					自治体におけるCO2の排出量を把握するため
29		削減量<tCO2>				自治体におけるCO2の排出量を把握するため
28-1		吸収量<tCO2>				自治体におけるCO2の吸収量を把握するため
30	エコロジカルフットプリント<gha/人>					自治体における資源消費量及び再生産に必要な自然の面積を把握するため
31	自然環境汚染量<t>					自治体における自然環境汚染量を把握するため
31-1		汚染排出量(t)				自然環境汚染量の内数として、汚染排出量を把握するため
31-2		大気汚染物質排出量(t/年)				自然環境汚染量の内数として、大気汚染物質排出量を把握するため
31-3		水の汚染物質排出量(t/年)				自然環境汚染量の内数として、水の汚染物質排出量を把握するため
31-4		露天埋立地の数(個)				自然環境汚染量の内数として、露天埋立地の数を把握するため
31-5		土壌汚染（ mg/m^3（濃度））				自然環境汚染量の内数として、土壌汚染を把握するため
32	水の循環率<%>					上水道の使用量に占める循環水量の割合を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
33	CE関連売上高<円>					自治体におけるCE関連の売上高を把握するため
34	CE関連処理費<円>					自治体における廃棄物・再資源化の処理費用を把握するため [CE関連処理費<円>＝廃棄物処理費<円>＋リサイクル費<円>]
35		廃棄物処理費<円>				自治体における廃棄物処理費用を把握するため [廃棄物処理費<円>＝処理・維持管理費<円>＋建設改良費<円>]
35-1			処理・維持管理費<円>			廃棄物処理費の内数として、処理・維持管理費を把握するため [処理・維持管理費<円> ＝人件費<円>＋処理費<円>＋車両等積入費<円>]
35-1-1				人件費<円>		処理・維持管理費の内数として、人件費を把握するため
35-1-2				処理費<円>		処理・維持管理費の内数として、処理費を把握するため
35-1-3				車両等積入費<円>		処理・維持管理費の内数として、車両等積入費を把握するため
35-1-4				委託費<円>		処理・維持管理費の内数として、委託費を把握するため
35-2			建設改良費<円>			廃棄物処理費の内数として、建設改良費を把握するため [建設改良費<円>＝工事費<円>＋調査費<円>＋組合分担金<円>]
35-2-1				工事費<円>		建設改良費の内数として、工事費を把握するため
35-2-2				調査費<円>		建設改良費の内数として、調査費を把握するため
35-2-3				組合分担金<円>		建設改良費の内数として、組合分担金を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
36	CE関連処理費<円>	リサイクル費<円>				自治体におけるリサイクル費用を把握するため [リサイクル費<円>＝資源化処理単価<円/kg>×再資源化量<t>] ＊再資源化量<t>については、kg換算の上で算定
36-0-0-1				ペットボトル<円/kg>		自治体におけるリサイクル費を項目別に把握するため
36-0-0-2				缶<円/kg>		
36-0-0-3				ビン<円/kg>		
36-0-0-4				容器包装プラスチック<円/kg>		
36-0-0-5				紙類+紙パック<円/kg>		
36-0-0-6				白色トレイ<円/kg>		
36-0-0-7				布類<円/kg>		
36-0-0-8				廃油<円/kg>		
36-0-0-9				小型家電<円/kg>		
36-0-0-10				小物金属<円/kg>		
36-0-0-11				食品<円/kg>		
36-0-0-12				おむつ<円/kg>		
36-0-0-13				蓄電池（レアメタル含む）<円/kg>		

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
36-0-1	CE関連処理費<円>	リサイクル費<円>	資源化処理単価<円/kg>			リサイクル費用のうち、資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-1				ペットボトル<円/kg>		ペットボトルを資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-2				缶<円/kg>		缶を資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-3				ビン<円/kg>		ビンを資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-4				容器包装プラスチック<円/kg>		容器包装プラスチックを資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-5				紙類+紙パック<円/kg>		紙類+紙パックを資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-6				白色トレイ<円/kg>		白色トレイを資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-7				布類<円/kg>		布類を資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-8				廃油<円/kg>		廃油を資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-9				小型家電<円/kg>		小型家電を資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-10				小物金属<円/kg>		小物金属を資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-11				食品<円/kg>		食品を資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-12				おむつ<円/kg>		おむつを資源化するための処理単価を把握するため
36-0-1-13				蓄電池（レアメタル含む）<円/kg>		蓄電池（レアメタル含む）を資源化するための処理単価を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
36-0-2	CE関連処理費<円>	リサイクル費<円>	有価物売却単価<円/kg>			リサイクル費用のうち、有価物の売却単価を把握するため
36-0-2-1				ペットボトル<円/kg>		ペットボトルを有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-2				缶<円/kg>		缶を有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-3				ビン<円/kg>		ビンを有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-4				容器包装プラスチック<円/kg>		容器包装プラスチックを有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-5				紙類+紙パック<円/kg>		紙類+紙パックを有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-6				白色トレイ<円/kg>		白色トレイを有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-7				布類<円/kg>		布類を有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-8				廃油<円/kg>		廃油を有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-9				小型家電<円/kg>		小型家電を有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-10				小物金属<円/kg>		小物金属を有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-11				食品<円/kg>		食品を有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-12				おむつ<円/kg>		おむつを有価物として売却する際の単価を把握するため
36-0-2-13				蓄電池（レアメタル含む）<円/kg>		蓄電池（レアメタル含む）を有価物として売却する際の単価を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
36-1	CE関連処理費<円>	リサイクル費<円>				リサイクル費用の内数として、処理・維持管理費を把握するため [処理・維持管理費<円>＝収集運搬費<円>＋中間処理費<円>]
36-1-1			処理・維持管理費<円>	収集運搬費<円>		リサイクル費用の内数として、処理・維持管理費を把握するため [処理・維持管理費<円>＝燃料費<円>＋人件費<円>]
36-1-1-1					燃料費<円>	処理・維持管理費の内数として、燃料費を把握するため
36-1-1-2					人件費<円>	処理・維持管理費の内数として、人件費を把握するため
36-1-2				中間処理費<円>		リサイクル費用の内数として、中間処理費を把握するため [中間処理費<円>＝保管費<円>＋選別費<円>＋再生費<円>]
36-1-2-1					保管費<円>	中間処理費の内数として、保管費を把握するため
36-1-2-2					選別費<円>	中間処理費の内数として、選別費を把握するため
36-1-2-3					再生費<円>	中間処理費の内数として、再生費を把握するため
36-2			建設改良費<円>			リサイクル費用の内数として、建設改良費を把握するため [建設改良費<円>＝収集以外の運搬費<円>+販売費<円>]
36-2-1				収集以外の運搬費<円>		建設改良費の内数として、収集以外の運搬費を把握するため
36-2-2				販売費<円>		建設改良費の内数として、販売費を把握するため
37	CE関連雇用者数 <人>					自治体におけるCE関連事業による雇用者数を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
38	CE関連への投資額<円>					事業者・自治体におけるCE関連への投資額を把握するため [CE関連への投資額＝CE関連への民間投資額＋CE関連への公共投資額]
38-1		CE関連への民間投資額<円>				事業者によるCE関連への投資額を把握するため
38-2		CE関連への公共投資額<円>				自治体によるCE関連への投資額を把握するため
38-2-1			設備投資額<円>			CE関連への公共投資額の内数として設備への投資額を把握するため
38-2-1-2				投資的経費（ごみ処理）		ごみ処理に関する社会資本の整備に要する経費を把握するため
39	CE関連事業の地域経済付加価値<円>					CEへの取組を通じた地域経済付加価値への影響を把握するため [地域経済付加価値＝従業員可処分所得＋地方税＋地域事業利益]
40		CE関連事業の従業員可処分所得 <円>				CE関連事業の地域経済付加価値の内数として、域内の消費力と生活水準を把握するため
41		CE関連事業の地方税<円>				CE関連事業の地域経済付加価値の内数として、自治体の財政健全性を把握するため
42		CE関連事業の地域事業者純利益<円>				CE関連事業の地域経済付加価値の内数として、域内事業者による地域経済の成長力を把握するため
43	自治体でのCE取組度（目標値等）<->					自治体におけるCEの取組度合いを把握するため
43-1		中長期計画				CE実現に向けた中長期計画の立案状況を把握するため
43-2		地域住民施策				地域住民に対する取組状況を把握するため
43-2-1				環境意識		自治体の住民における環境課題への関心・理解及び行動の状況を把握するため ※本指標については現在検討中であり、今後、指標名が変更となる可能性あり
43-2-2				環境配慮行動の実施度		
43-3		地域企業施策				地域企業に対する取組状況を把握するため
43-4		外部発信				外部発信をどの程度行っているかを把握するため
43-5		インフラ設備				インフラに関する取組状況を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：ウェルビーイングの実現に関する指標(3個)

④ウェルビーイングの実現

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	測るべき理由/計算式※
44	地域コミュニティの形成<->					地域住民・自治体間の結びつきの強さの程度を把握するため
45	環境満足度<->					地域住民の、日々の自然・居住環境への満足度を把握するため
46		CEへの満足度<->				地域住民の、自治体のCE施策・取組状況への満足度を把握するため

©copyright Circular Partners

【参考1】地域CE指標一覧：構成

地域CE指標を目的、大項目、中項目、小項目、測るべき理由/計算式でリスト化した
また、各指標は指標間の階層構造を踏まえて大項目、中項目①、中項目②、小項目①、小項目②の5階層で整理

地域サーキュラーエコノミー指標の構成

指標間の関係性を示す計算式は指標一覧表における「測るべき理由/計算式」の列に記載

#	大項目 ①	中項目① ②	中項目② ③	小項目① ④	小項目② ⑤	測るべき理由/計算式※
1	入口側の循環利用率<%>					利用資源量における、循環資源を利用している割合を把握するため [入口側の循環利用率＝循環利用量÷（循環利用量＋天然資源等投入量]
2		循環資源の利用量	<t>			入口側の循環利用率の内数として、循環資源の利用量を把握するため
3		利用資源量 <t>				入口側の循環利用率の内数として、総資源の利用量を把握するため
4	出口側の循環利用率<%>					総廃棄物量における、循環資源を利用している割合を把握するため [出口側の循環利用率＝（一般廃棄物の再資源化量＋産業廃棄物の再資源化量）÷（一般廃棄物量＋産業廃棄物量）]
5		総廃棄物量<t>				出口側の循環利用率の内数として、発生している総廃棄物量を把握するため
6			一般廃棄物量<t>			出口側の循環利用率の内数として、発生している一般廃棄物量を把握するため
6-1				収集ごみ量<t>		一般廃棄物量の内数として、収集ごみ量を把握するため
6-1-1					混合ごみ<t>	収集ごみ量を項目別に把握するため
6-1-2					可燃ごみ<t>	
6-1-3					不燃ごみ<t>	
6-1-4					資源ごみ<t>	
6-1-6					その他<t>	
6-1-6					粗大ごみ<t>	

©copyright Circular Partners

【参考2】地域のCE指標をめぐる動向：グローバル

欧州を中心に国・都市・地域では様々なCE関連指標を活用している

地域CE指標に関するフレームワークの検討状況

機関	検討状況
OECD＊1	■ 既存のCE測定フレームワークでは**CEの統一的な定義が存在しない、廃棄物に偏重しているなど様々な課題があり**、今後、新たなフレームワークの検討が必要であると認識
EU	■ CCRI*2では**地域の社会経済的特徴（1人当たり地域GDPや地域の経済構造）と循環型イニシアチブの実施進捗状況を考慮して循環経済をモニタリング**するフレームワークを検討

＊1：経済協力開発機構　＊2：EU循環経済行動計画2020の一環として立ち上げたイニシアチブ
出典：The Circular Economy in Cities and Regions、Methodology for the implementation of a circular economy at the local and regional scale

欧州での地域のCE指標に関する検討状況

■ OECDでは、ヨーロッパを中心に2018～2020年時点で**国・都市・地域の自治体が採用している474個のCE関連指標**を収集・分類した結果をレポートで公開

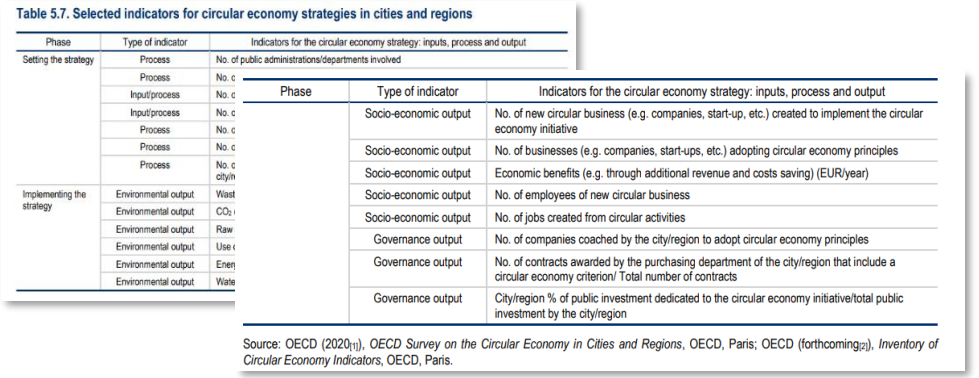


Table 5.7. Selected indicators for circular economy strategies in cities and regions

Phase	Type of indicator	Indicators for the circular economy strategy: inputs, process and output
Setting the strategy	Process	No. of public administrations/departments involved
	Process	No. c
	Input/process	No. c
	Input/process	No. c
	Process	No. c
	Process	No. c
	Process	No. c city/r
Implementing the strategy	Environmental output	Wast
	Environmental output	CO_2
	Environmental output	Raw
	Environmental output	Use
	Environmental output	Ener
	Environmental output	Wate
	Socio-economic output	No. of new circular business (e.g. companies, start-up, etc.) created to implement the circular economy initiative
	Socio-economic output	No. of businesses (e.g. companies, start-ups, etc.) adopting circular economy principles
	Socio-economic output	Economic benefits (e.g. through additional revenue and costs saving) (EUR/year)
	Socio-economic output	No. of employees of new circular business
	Socio-economic output	No. of jobs created from circular activities
	Governance output	No. of companies coached by the city/region to adopt circular economy principles
	Governance output	No. of contracts awarded by the purchasing department of the city/region that include a circular economy criterion/ Total number of contracts
	Governance output	City/region % of public investment dedicated to the circular economy initiative/total public investment by the city/region

Source: OECD (2020[1]), *OECD Survey on the Circular Economy in Cities and Regions*, OECD, Paris; OECD (forthcoming[2]), *Inventory of Circular Economy Indicators*, OECD, Paris.

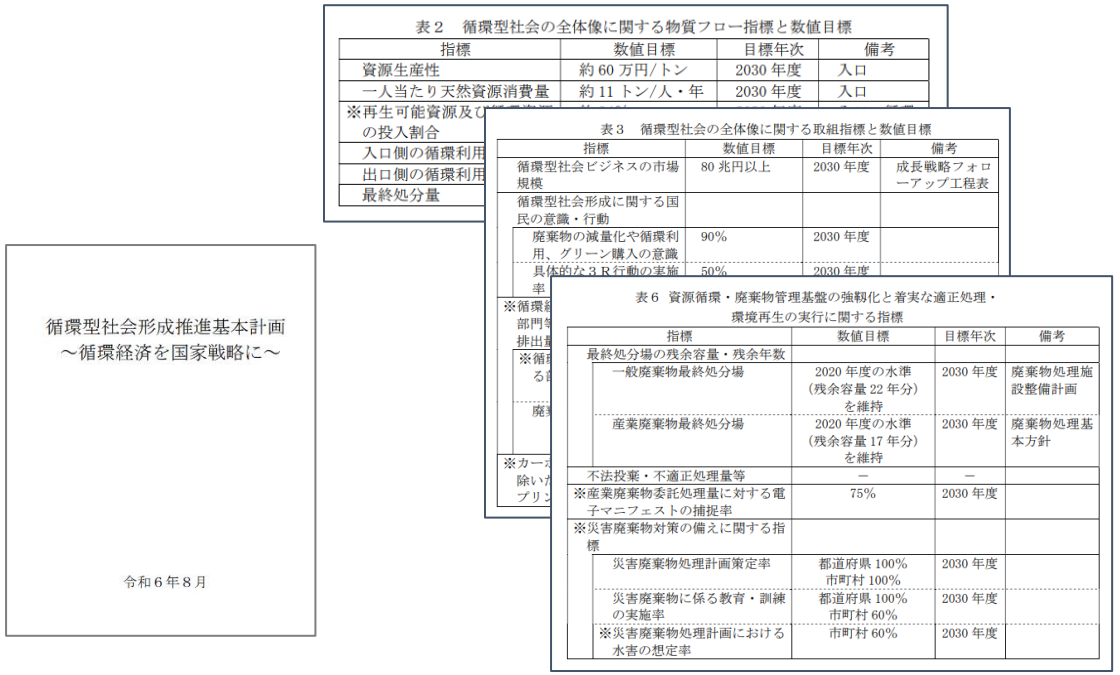
出典：The Circular Economy in Cities and Regions

©copyright Circular Partners

【参考2】地域のCE指標をめぐる動向：環境省

循環型社会形成推進計画にて循環型社会形成のための指標を、地域循環共生圏の地域指標分析において地域の指標を取りまとめている

循環型社会形成推進基本計画



循環型社会形成推進基本計画
～循環経済を国家戦略に～

令和６年８月

表２　循環型社会の全体像に関する物質フロー指標と数値目標

指標	数値目標	目標年次	備考
資源生産性	約 60 万円/トン	2030 年度	入口
一人当たり天然資源消費量	約 11 トン/人・年	2030 年度	入口
※再生可能資源及び… の投入割合			
入口側の循環利用…			
出口側の循環利用…			
最終処分量			

表３　循環型社会の全体像に関する取組指標と数値目標

指標	数値目標	目標年次	備考
循環型社会ビジネスの市場規模	80 兆円以上	2030 年度	成長戦略フォローアップ工程表
循環型社会形成に関する国民の意識・行動			
廃棄物の減量化や循環利用、グリーン購入の意識	90%	2030 年度	
具体的な３Ｒ行動の実施率	50%	2030 年度	
※循環… 部門等… 排出量			
※循… る…			
廃…			
※カー… 除い… プリ…			

表６　資源循環・廃棄物管理基盤の強靭化と着実な適正処理・環境再生の実行に関する指標

指標	数値目標	目標年次	備考
最終処分場の残余容量・残余年数			
一般廃棄物最終処分場	2020 年度の水準（残余容量 22 年分）を維持	2030 年度	廃棄物処理施設整備計画
産業廃棄物最終処分場	2020 年度の水準（残余容量 17 年分）を維持	2030 年度	廃棄物処理基本方針
不法投棄・不適正処理量等	－	－	
※産業廃棄物委託処理量に対する電子マニフェストの捕捉率	75%	2030 年度	
※災害廃棄物対策の備えに関する指標			
災害廃棄物処理計画策定率	都道府県 100% 市町村 100%	2030 年度	
災害廃棄物に係る教育・訓練の実施率	都道府県 100% 市町村 60%	2030 年度	
※災害廃棄物処理計画における水害の想定率	市町村 60%	2030 年度	

循環型社会の全体像に関する指標と循環型社会形成に向けた**取組の進展に関する指標（重点分野別の指標）を設定**しており、目標値についても言及している
なお、**地域CE指標は本指標を参考に作成している**

出典：環境省「循環型社会推進基本計画」

地域循環共生圏

概要

自立・分散型の持続可能な社会を示す考え方に基づき、「**地域循環共生圏**」の検討及び取組推進

時期

2018年4月、第五次環境基本計画で提唱

取組詳細

- 地域循環共生圏を推進する地域プラットフォームの構築支援
- 地域資源を活用して環境・経済・社会の改善に取り組むローカルSDGsの事業化支援
- 経済面を含む地域の強み・弱み・課題を定量的に分析するツール**地域指標分析/地域経済循環分析**の提供

地域指標分析では、全自治体で統一的に入手可能なすべてのデータを**客観的指標(地域のストック・地域の成果)**として網羅的に整理している
（※なお、地域CE指標との類似点・差分についての詳細は次頁以降を参照）

データソース：環境省「環境省ローカルSDGs -地域循環共生圏-」

©copyright Circular Partners

【参考3】GCP（Global Circularity Protocol for Business）とは

GCPは、循環性の測定・改善・発信を支援する企業向け実務プロトコルであり、国際的なフレームワークにて定められた指標であることから、地域CE指標の検討において重点的に関連性を整理している

	循環性の評価指標	
Close the loop	**循環型インフロー** % circular inflow	•使用部材のうち、非バージンまたはリサイクル部材が占める割合を測定 ※重要資源別の%もoptionalとして存在
Close the loop	**循環型アウトフロー** % circular outflow	•使用後や廃棄時の回収可能性（recovery potential）と実績（actual recovery）を測定する ※回収タイプ別(リユース、リサイクル等)も optionalとして存在
Close the loop	**マテリアル循環性** % material circularity	•インフローとアウトフローを統合し、単一の指標として測定する (%circular inflow + %circular Outflow) / 2
Narrow & Slow the loop	**材料削減(総量)** % absolute dematerialization	•設定した比較量に対する材料削減 •※材料削減アプローチ リユース、リデュース（軽量化）、デジタル化、サービス化、シェアリング、耐久性・長寿命化、リユース・修理・リファービッシュ・リマニファクチャー、オンデマンド生産
Narrow & Slow the loop	**単位あたり材料削減** % relative dematerialization	
Narrow & Slow the loop	**実耐用年数** actual lifetime	•製品の平均耐用年数実績

	循環による効果の測定指標	
Value the loop	**循環材生産性** circular material productivity	•非循環材あたりの収益 •Revenue / total mass of linear inflow
Value the loop	**循環材収益** material circularity revenue	•循環材の収益貢献 •(circular inflow + circular outflow) / 2 * Revenue
Impact the loop	**GHG インパクト** GHG impact	•循環ソーシングおよび回収に起因する排出削減（GHG Scope 3削減等）
Impact the loop	**自然インパクト** Nature impact	•ネイチャーポジティブへの寄与度（Nature impact scorecard）
Impact the loop	**社会インパクト** Social impact	•ソーシャルリスク及び機会への影響（職業やその他社会コミュニティへの影響）

出所：World Business Council for Sustainable Development and One Planet Network (2025). Global Circularity Protocol for Businessを基にデロイト作成

©copyright Circular Partners

【参考3】GCP（Global Circularity Protocol for Business）とは：関連性の整理

策定した地域CE指標は、自治体における必要性を踏まえた上で、各GCP指標に対応する指標をそれぞれ含む構成としている

【凡例】：資源制約への対応　：環境制約への対応　：成長機会の獲得　：ウェルビーイングの実現

Close the loop

循環型インフロー % circular inflow	入口の循環利用率(%) 循環資源の利用量・率 (t・%) 利用資源量 (t)
循環型アウトフロー % circular outflow	出口の循環率(%) 総廃棄物量(t) 一般廃棄物(t) 再資源化量(t)

Narrow & Slow the loop

マテリアル循環性 % material circularity	算定式： （循環型インフロー＋循環型アウトフロー）÷2 ※現時点では指標としては未追加だが、上記算定式より算定は可能なため、「マテリアル循環性<%>」の追加を検討中
材料削減(総量) % absolute dematerialization 単位あたり材料削減 % relative dematerialization 実耐用年数 actual lifetime	自治体は製造活動を行う主体ではないことから、投入資源量の削減に係る指標及び、実耐用年数の指標は対象外と整理する

Value the loop

循環材生産性 circular material productivity	資源生産性 (円/t)
循環材収益 material circularity revenue	CE関連事業の地域経済付加価値(円) CE関連売上高(円)

Impact the loop

GHG インパクト GHG impact	CO2排出量(tCO2) 削減量(tCO2)
自然インパクト Nature impact	水の循環率(%) エコロジカルフットプリント(gha/人)
社会インパクト Social impact	CE関連雇用者数(人) 地域コミュニティの形成(-) 環境満足度(-)

*GCPの定義に基づき、明確に含まれると考えられる指標のみを記載している

©copyright Circular Partners

第4章：地域におけるサーキュラーエコノミーの評価・推進ツール
（略称：地域CE評価・推進ツール／ツール）

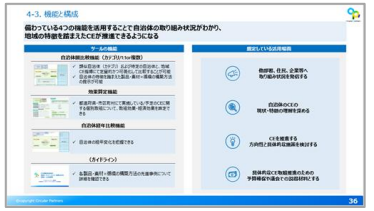
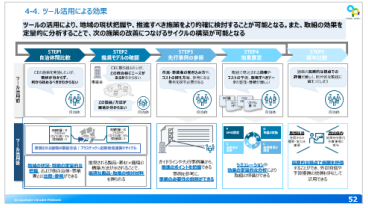
4-1：概要
4-2：ツールの目的
4-3：機能と活用場面
4-4：ツール活用による効果

※当該ツールは、CPs会員のみが利用できる機能となります。

©copyright Circular Partners

4-1. 概要

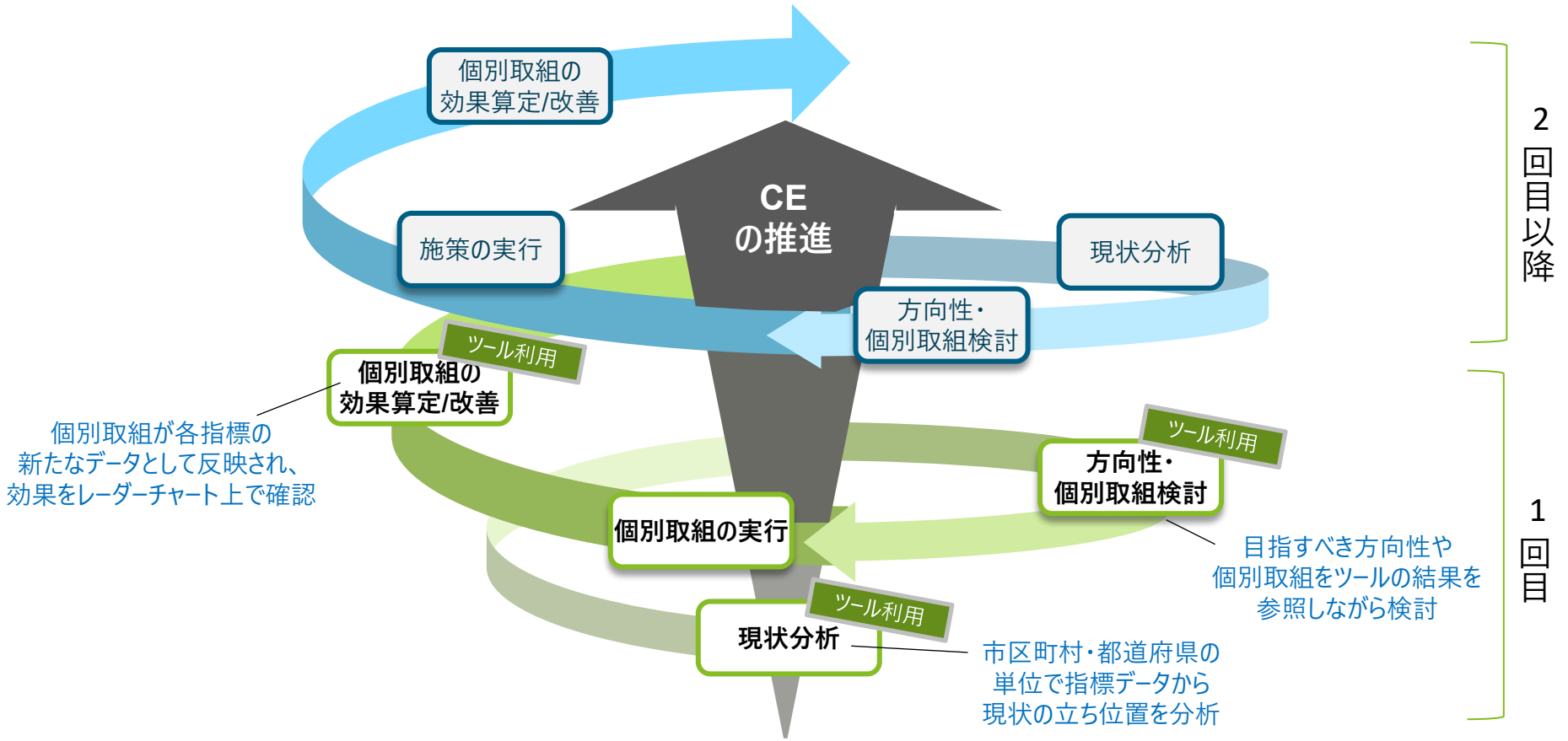
本ツールは、地域CE指標を用いた現状分析・評価や取組の効果算定を可能にすることで、地域におけるCEの推進を支援する

ツールの活用	概要	参考 ※評価ツールの説明書より一部抜粋
ツールの**目的**	• 地域CE指標を用いて、地域の**現状把握**、**取組方針の検討**、**取組効果の検証**を可能にし、CEの推進を支援する	• ツールの目的
ツールの**機能と効果**	• ツールでは、**自治体間比較機能**・**効果算定機能**・**自治体経年比較**・**先行事例集**の4つの機能を活用することができる • ツールの活用により、地域の**取組状況や立ち位置を定量的に把握**するとともに、**推進すべき施策をより的確に検討**することができる。また、**取組の効果を定量的に分析**し、**次の施策の改善**につなげるサイクルを構築することができる	• ツールの機能と活用場面  • 活用することによる効果 

©copyright Circular Partners

4-2. ツールの目的

本ツールでは、地域CE指標を用いて、地域の現状把握、取組方針の検討、取組効果の検証を可能にし、地域におけるCEの推進を支援する



©copyright Circular Partners

4-3. 機能と活用場面

本ツールに備わる4つの機能は、地域の現状把握や施策の検討、自治体内部への説明や対外発信の材料として活用されることを想定している

ツールの機能

自治体間比較（カテゴリ/1:1or複数）

- ✓ 類似自治体（カテゴリ）及び特定の自治体と、地域CE指標にて定量的かつ可視化して比較することが可能
- ✓ 自治体の特徴を踏まえた製品・素材×循環の構築方法の提示が可能

効果算定

- ✓ 都道府県・市区町村にて実施している/予定のCEに関する個別取組について、取組効果・経済効果を算定できる

自治体経年比較

- ✓ 自治体の経年変化を把握できる

先行事例集

- ✓ 各製品・素材×循環の構築方法の先進事例について詳細を確認できる

想定される活用場面

- **地域におけるCEの現状・特徴の理解を深める**
- **CEを推進する方向性と具体的な施策を検討する**
- **具体的なCE取組推進のための予算確保や議会での説得材料とする**
- **他部署、住民、企業等へ取組状況を発信する**

©copyright Circular Partners

4-4. ツール活用による効果

ツールの活用により、地域の現状把握や、推進すべき施策をより的確に検討することが可能となる。また、取組の効果を定量的に分析することで、次の施策の改善につなげるサイクルの構築が可能となる

	STEP1 自治体間比較	STEP2 推奨モデルの確認	STEP3 先行事例の参照	STEP4 効果算定	STEP5 経年比較
ツール活用前	CEの施策を実施したいが、**現状が分からず、何から始めるべきかわからない** 自治体	事業者 CEに取り組みたいが、**どの自治体にニーズがあるか**わからない **どの製品/方法が最適か分からない** 自治体	**市民・事業者の巻き込み方**や、**コストの抑え方**等、参考になる事例を探す必要がある 自治体	取組で見込まれる**効果**や**コストの**予測、**取得すべきデータの整理・分析**が難しい 回収量 X コスト X円 CO2 Xt リサイクル量 Xt 自治体	施策の**長期的な視点での評価**が難しく、断片的な取組に留まってしまう 自治体
ツール活用後	廃棄物量：Yt プラスチック リサイクル率：Y% 環境意識：Y 廃棄物量：Xt プラスチック リサイクル率：X% 環境意識：X 推奨される循環の構築方法：プラスチック×近隣地域連携リサイクル **地域の状況・特徴の定量的な把握**、および他自治体・事業者との**比較・参照**ができる	推奨される製品・素材×循環の構築方法が示されることで、**最適な製品・取組の検討材料**を得られる	ガイドラインや先行事例集から、**推進のポイントを把握**できる事例を参考に、**事業の必要性の説明ができる**	P KPIの設定 D 取組の実施 C 指標項目の測定 A 改善点の反映 **シミュレーション**や**効果の定量的な分析**により取組の評価ができる	**地域住民** 住民からの理解・協力を獲得 **自治体内** 効果を可視化 予算獲得に寄与 **長期的な視点で施策を評価**することができ、外部発信や予算獲得の説得材料として活用できる

©copyright Circular Partners

ツールの操作・活用方法

「地域サーキュラーエコノミーの評価・推進ツール」の
操作・活用方法については、ツール内に掲載のマニュアルをご確認ください

©copyright Circular Partners

付録1：用語一覧

©copyright Circular Partners

用語一覧（1/3）

用語	解説
ウェルビーイング/ ウェルビーイングの実現	一般的には、個人の権利や自己実現が保証され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること。 本ツールにおいては住民の地域・生活に対する意識等を測る観点のこと
エコロジカルフットプリント	人類が地球環境に与えている「負荷」の大きさを測る指標のこと
乖離度	本ツールにおいては、平均値から離れている度合いのこと
カテゴリ	自治体を人口規模3区分（大規模：50万人以上、中規模：5～50万人、小規模：5万人未満）×主要産業（1次産業、2次産業、3次産業）の9つに分類した類型のこと。 本ツールのレーダーチャートにおいては、各指標の比較対象としてカテゴリの平均値が使われることが多い
環境制約への対応	本ツールにおいては、地域内の環境リスクへの取組度を測る観点のこと
基礎指標	循環の構築方法を選定するに当たって必要な自治体のポテンシャルを測る指標のこと
公共投資	政府部門による投資。国の一般会計、地方公共団体の普通会計、特別会計のうちの非収益的事業にかかわる行政投資と、地方公営企業などや国・地方公共団体の収益的事業にかかわる産業投資とがある。狭義には前者のみをいうこともある
CE	生産段階から再利用などを視野に入れて設計し、新しい資源の使用や消費をできるだけ抑えるなど、あらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、サービスや製品に最大限の付加価値をつけることを目指した新たな経済システムのこと。 「循環経済」「循環型経済」ともいい、英語表記の“Circular Economy”の頭文字を取って“CE”と略されることもある。 国際的な議論では、循環経済は、資源（再生可能な資源を含む。）や製品の価値を維持、回復又は付加することで、それらを循環的に利用する経済システムであるとされている。循環経済の意義については、UNEA（国連環境総会）やISO（国際標準化機構）といった国際的な場においても議論されている

©copyright Circular Partners

用語一覧（2/3）

用語	解説
CCTI	サーキュラーシティ移行指標（Circular City Transition Indicator：CCTI）は、アーティクル株式会社、三井住友信託銀行株式会社が運営する、自治体のサーキュラーシティ（循環都市）への移行状況を客観的・定量的に把握し、サーキュラーシティ政策や戦略策定、行動、成果の最大化に活用するためのサーキュラーシティ移行支援ツールである
CE関連売上高	本ツールにおいては、廃棄物処理業の生産高のこと
CE関連雇用者数	本ツールにおいては、廃棄物処理業の雇用者数のこと
CE関連事業の地域経済付加価値	CE関連事業による「地域の利益」のこと。地域経済付加価値は従業員可処分所得＋地方税＋地域事業者利益で算出できるが、本ツールではデータ取得困難につきN/A表記となる
シェアリング	個人や企業が保有する製品・サービス等を共有すること
CPs	CEに野心的・先進的に取り組む、国、 自治体、大学、企業・業界団体及び関係機関・関係団体等が一体となり、日本におけるサーキュラーエコノミーの実現に必要な施策等の検討を行うことを目的としたパートナーシップである「サーキュラーパートナーズ(Circular Partners)」の略称
資源制約への対応	本ツールにおいては地域内の資源循環への取組度を測る観点のこと
循環資源	循環型社会形成推進基本法で、廃棄物等のうち有用なもののこと
新国富	現在を生きる私たち、将来の世代が得るであろう福祉を生み出す、社会が保有する富のこと
新国富指標	新国富を金銭価値化したもののこと。人工資本、人的資本、自然資本から構成され、経済から環境、健康まで包括的に網羅する指標であり、SDGsの達成度や地域の豊かさ等を把握するための指標として活用されている

©copyright Circular Partners

用語一覧（3/3）

用語	解説
静脈企業	廃棄物を処理・加工し，原料や製品として再生産する企業のこと
成長機会の獲得	本ツールにおいては地域内の資源・資金の循環を通じた地域GDPへの寄与の程度を測る観点のこと
地域GDP	地域内で一定の期間内に新たに生み出された「付加価値」を合計した金額のこと
地域CE 指標	CE実現に向けた各地域の取組によるアウトカムを同じ物差しで測り、対応方針の示唆を得られるようにした評価理論とツールのこと
循環の構築方法	地域の特性に即した最適な規模の資源循環の類型群のこと
動脈企業	天然資源などを加工して製品を製造する企業のこと
バリューチェーン	製品やサービスを提供する一連の流れにおける各工程で価値を生み出すための一連の活動のこと
4つの目的	CPsにて掲げている、「環境制約への対応」、「資源制約への対応」、「成長機会の獲得」、「ウェルビーイングの実現」の地域循環で達成を目指す4つの目的のこと
リファービッシュ	初期不良品や中古品を、製造元が修理・整備して販売すること
リマニュファクチャリング	使用済み製品や部品を回収し再び部品や製品として再生するプロセスのこと
リユース	使用済み製品などをそのまま繰り返し再利用すること

©copyright Circular Partners

付録2：地域CE指標　出所一覧

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
1	入口の循環利用率<%>					下記より算出
2		循環資源の利用量・率 <t・%>				資源・リサイクル促進センター「リサイクルデータブック」
3		利用資源量 <t>				資源・リサイクル促進センター「リサイクルデータブック」
4	出口の循環率<%>					下記より算出
5		総廃棄物量<t>				下記より算出
6			一般廃棄物量<t>			下記より算出
6-1				収集ごみ量<t>		環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
6-1-1					混合ごみ<t>	
6-1-2					可燃ごみ<t>	
6-1-3					不燃ごみ<t>	
6-1-4					資源ごみ<t>	
6-1-5					その他<t>	
6-1-6					粗大ごみ<t>	
6-2				直接搬入量<t>		
6-2-1					混合ごみ<t>	
6-2-2					可燃ごみ<t>	
6-2-3					不燃ごみ<t>	
6-2-4					資源ごみ<t>	
6-2-5					その他<t>	
6-2-6					粗大ごみ<t>	

©copyright Circular Partners

＊1:環境省が公開している環境白書にて、入口の循環率は共に循環利用量を用いて算出されていることから本指標においても入口の循環率の算出に当たり、循環資源の利用量を採用

地域CE指標　出所一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
6-3	出口の循環率<%>	総廃棄物量<t>	一般廃棄物量<t>	集団回収量<t>		下記より算出
6-3-1					紙類<t>	環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
6-3-2					紙パック<t>	
6-3-3					紙製容器包装<t>	
6-3-4					金属類<t>	
6-3-5					ガラス類<t>	
6-3-6					ペットボトル<t>	
6-3-7					白色トレイ<t>	
6-3-8					容器包装プラスチック<t>	
6-3-9					プラスチック類<t>	
6-3-10					布類<t>	
6-3-11					肥料<t>	
6-3-12					飼料<t>	
6-3-13					溶融スラグ<t>	
6-3-14					固形燃料<t>	
6-3-15					燃料<t>	
6-3-16					焼却灰・飛灰のセメント原料化<t>	
6-3-17					セメント等への直接投入<t>	
6-3-18					飛灰の山元還元<t>	
6-3-19					廃食用油（BDF)<t>	
6-3-20					その他<t>	
6-4				不法投棄量<t>		

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
7			産業廃棄物量 <t>			環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況資料」
7-1				燃え殻<t>		
7-2				汚泥<t>		
7-3				廃油<t>		
7-4				廃酸<t>		
7-5				廃アルカリ<t>		
7-6				廃プラスチック類<t>		
7-7				紙くず<t>		
7-8				木くず<t>		
7-9				繊維くず<t>		
7-10	出口の循環率<%>	総廃棄物量<t>		動植物性残渣<t>		環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況資料」
7-11				動物系固形不要物<t>		
7-12				ゴムくず<t>		
7-13				金属くず<t>		
7-14				ガラスくず及び陶磁器くず<t>		
7-15				鉱さい<t>		
7-16				がれき類<t>		
7-17				動物のふん尿<t>		
7-18				動物の死体<t>		
7-19				ばいじん<t>		

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
8	出口側の循環利用率<%>	再資源化量<t>				環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
8-0-1				紙類（紙パック、紙製容器包装を除く）		環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
8-0-2				紙パック		
8-0-3				紙製容器包装		
8-0-4				金属類		
8-0-5				ガラス類		
8-0-6				ペットボトル		
8-0-7				白色トレイ		
8-0-8				容器包装プラスチック（白色トレイを除く）		
8-0-9				製品プラスチック		
8-0-10				その他プラスチック類		
8-0-11				布類		
8-0-12				肥料		
8-0-13				飼料		
8-0-14				溶融スラグ		
8-0-15				固形燃料（RDF, RPF）		
8-0-16				燃料（固形燃料を除く）		
8-0-17				焼却灰・飛灰のセメント原料化		
8-0-18				セメント等への直接投入		
8-0-19				飛灰の山元還元		
8-0-20				廃食用油(BDF)+(BDF以外)		
8-0-21				その他		

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
8-1	出口側の循環利用率<%>	再資源化量<t>	マテリアルリサイクル量			–
8-2			ケミカルリサイクル量			–
8-3			サーマルリサイクル量			–
9		リファブ量<t>				–
10		リユース量<t>				環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
11		リペア量<t>				–
12		生物分解化量<t>				–
13	出口側の循環利用率<%>	廃棄物処理施設取扱量<t>				下記より算出
13-1				焼却施設取扱量<t>		環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
13-2				再資源化施設取扱量<t>		
13-3				ごみ肥料化施設取扱量<t>		
13-4				メタン化施設取扱量<t>		
13-5				ごみ燃料化施設取扱量<t>		
13-6				粗大ごみ処理施設取扱量<t>		
13-7				その他施設取扱量<t>		
13-8				リペア・リユース施設取扱量<t>		

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：資源制約への対応に関する指標(112個)

①資源制約への対応

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
14		廃棄物処理施設数<個>				下記より算出
14-1				焼却施設数<個>		環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
14-2				再資源化施設数<個>		
14-3				ごみ肥料化施設数<個>		
14-4				メタン化施設数<個>		
14-5				ごみ燃料化施設数<個>		
14-6				粗大ごみ処理施設数<個>		
14-7				その他施設数<個>		
14-8				リペア・リユース施設数<個>		
15	資源生産性<円/t>					資源・リサイクル促進センター「リサイクルデータブック」
16		天然資源投入量<t>				資源・リサイクル促進センター「リサイクルデータブック」
17		地域GDP<円>				内閣府「県民経済計算（平成23年度 - 令和３年度）」

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：環境制約への対応に関する指標(32個)

②環境制約への対応

※一部大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
18	最終処分量・率<t/%>					下記より算出
19		一般廃棄物最終処分量<t>				環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
19-0-1				焼却率<%>		
19-0-2				埋立率<%>		環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」
19-0-3				残余容量<㎥>		環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
19-0-4				残余年数<年>		
19-0-5				最終処分場数<個>		環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」
19-0-6				最終処分場埋立容量<㎥>		環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
19-0-7				新規最終処分場数<個>		－
20			直接最終処分量<t>			環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」
21			焼却残渣量<t>			環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」
22			処理残渣量<t>			環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」
23		産業廃棄物最終処分量<t>				環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況資料」

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：環境制約への対応に関する指標(32個)

②環境制約への対応

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
24	エネルギー使用量・率<TJ/%>					内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「地域エネルギー需給データベース」
25		エネルギー自給率<%>				
26		再生エネルギー導入量・率<TJ・%>				
26-1		再生エネルギー発電量・率<TJ・%>				–
26-2		再生エネルギー資源利用量・率<TJ・%>				–
27		化石燃料などの導入量・率<TJ・%>				内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「地域エネルギー需給データベース」
27-1		化石燃料などの発電量・率<TJ・%>				–
27-2		化石燃料などの資源利用量・率<TJ・%>				–
28	CO2排出量<tCO2>					環境省「都道府県別・部門別CO2排出量の現況推計 - 脱炭素地域づくり支援サイト｜環境省」
29		削減量<tCO2>				
28-1		吸収量<tCO2>				–
30	エコロジカルフットプリント<gha/人>					WWF「WWF_ecofoot_190717」
31	自然環境汚染量<t>					–
31-1		汚染排出量(t)				–
31-2		大気汚染物質排出量(t/年)				–
31-3		水の汚染物質排出量(t/年)				–
31-4		露天埋立地の数(個)				–
31-5		土壌汚染（ mg/m³（濃度））				–
32	水の循環率<%>					

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
33	CE関連売上高<円>					環境省「令和６年度環境産業の市場規模推計等委託業務 環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書」
34	CE関連処理費<円>					環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
35		廃棄物処理費<円>				
35-1			処理・維持管理費 <円>			－
35-1-1				人件費 <円>		－
35-1-2				処理費 <円>		－
35-1-3				車両等積入費 <円>		－
35-1-4				委託費 <円>		－
35-2			建設改良費<円>			－
35-2-1				工事費 <円>		－
35-2-2				調査費 <円>		－
35-2-3				組合分担金 <円>		－

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
36	CE関連処理費<円>	リサイクル費 <円>				環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」
36-0-0-1				ペットボトル<円/kg>		環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」 自治体の公開資料及び受領資料を参照
36-0-0-2				缶<円/kg>		
36-0-0-3				ビン<円/kg>		
36-0-0-4				容器包装プラスチック<円/kg>		
36-0-0-5				紙類+紙パック<円/kg>		
36-0-0-6				白色トレイ<円/kg>		
36-0-0-7				布類<円/kg>		
36-0-0-8				廃油<円/kg>		
36-0-0-9				小型家電<円/kg>		
36-0-0-10				小物金属<円/kg>		
36-0-0-11				食品<円/kg>		
36-0-0-12				おむつ<円/kg>		
36-0-0-13				蓄電池（レアメタル含む）<円/kg>		

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
36-0-1	CE関連処理費<円>	リサイクル費<円>	資源化処理単価<円/kg>			環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」 自治体の公開資料及び受領資料を参照
36-0-1-1				ペットボトル<円/kg>		
36-0-1-2				缶<円/kg>		
36-0-1-3				ビン<円/kg>		
36-0-1-4				容器包装プラスチック<円/kg>		
36-0-1-5				紙類+紙パック<円/kg>		
36-0-1-6				白色トレイ<円/kg>		
36-0-1-7				布類<円/kg>		
36-0-1-8				廃油<円/kg>		
36-0-1-9				小型家電<円/kg>		
36-0-1-10				小物金属<円/kg>		
36-0-1-11				食品<円/kg>		
36-0-1-12				おむつ<円/kg>		
36-0-1-13				蓄電池（レアメタル含む）<円/kg>		

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
36-0-2	CE関連処理費<円>	リサイクル費<円>	有価物売却単価<円/kg>			環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」 自治体の公開資料及び受領資料を参照
36-0-2-1				ペットボトル<円/kg>		
36-0-2-2				缶<円/kg>		
36-0-2-3				ビン<円/kg>		
36-0-2-4				容器包装プラスチック<円/kg>		
36-0-2-5				紙類+紙パック<円/kg>		
36-0-2-6				白色トレイ<円/kg>		
36-0-2-7				布類<円/kg>		
36-0-2-8				廃油<円/kg>		
36-0-2-9				小型家電<円/kg>		
36-0-2-10				小物金属<円/kg>		
36-0-2-11				食品<円/kg>		
36-0-2-12				おむつ<円/kg>		
36-0-2-13				蓄電池（レアメタル含む）<円/kg>		

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
36-1	CE関連処理費<円>	リサイクル費<円>				－
36-1-1			処理・維持管理費<円>	収集運搬費<円>		－
36-1-1-1					燃料費<円>	－
36-1-1-2					人件費<円>	－
36-1-2				中間処理費<円>		－
36-1-2-1					保管費<円>	－
36-1-2-2					選別費<円>	－
36-1-2-3					再生費<円>	－
36-2			建設改良費<円>			－
36-2-1				収集以外の運搬費<円>		－
36-2-2				販売費<円>		－
37	CE関連雇用者数 <人>					環境省「令和６年度環境産業の市場規模推計等委託業務 環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書」

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：成長機会の獲得に関する指標(83個)

③成長機会の獲得

※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
38	CE関連への投資額<円>					－
38-1		CE関連への民間投資額<円>				－
38-2		CE関連への公共投資額<円>				－
38-2-1			設備投資額<円>			－
38-2-1-2				投資的経費（ごみ処理）		財務省「地方財政状況調査」
39	CE関連事業の地域経済付加価値<円>					下記より算出
40		CE関連事業の従業員可処分所得 <円>				統計局統計情報利用推進課「社会・人口統計体系」
41		CE関連事業の地方税<円>				総務省「令和５年度　市町村税課税状況等の調査」
42		CE関連事業の地域事業者純利益<円>				経済産業省「経済産業省企業活動基本調査」
43	自治体でのCE取組度（目標値等）<->					－
43-1		中長期計画				－
43-2		地域住民施策				－
43-2-1				環境意識		－
43-2-2				環境配慮行動の実施度		－
43-3		地域企業施策				－
43-4		外部発信				－
43-5		インフラ設備				－

©copyright Circular Partners

地域CE指標　出所一覧：ウェルビーイングの実現に関する指標(3個)

④ウェルビーイングの実現

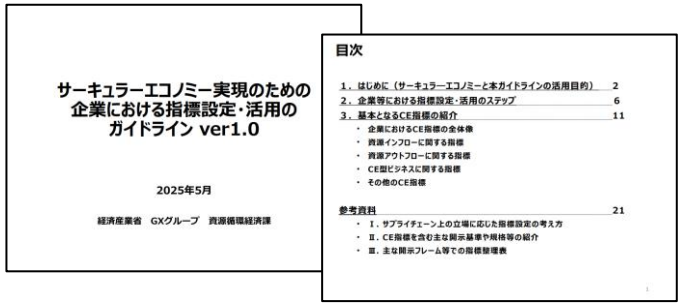
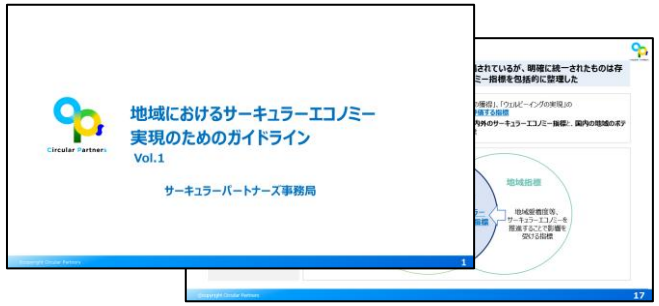
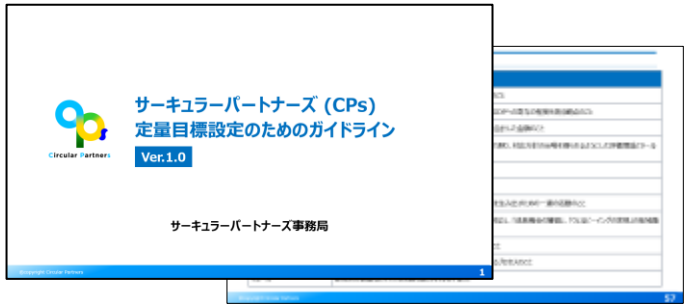
※一部の大項目は、中項目を内数として計算

#	大項目	中項目①	中項目②	小項目①	小項目②	出所
44	地域コミュニティの形成<->					aiESG社保有データ
45	環境満足度<->					aiESG社保有データ
46		CEへの満足度<->				aiESG社保有データ

©copyright Circular Partners

【参考】CEに関するCPs関連の他指標・ガイドとの違いについて

経済産業省では、「CE実現のための企業における指標設定・活用のガイドライン」を公表しております。
CEにおける企業の目標設定の全体像や目標設定のためのステップを示しておりますので、併せてご活用ください

	CE実現のための 企業における指標設定・活用のガイドライン	本資料	CPs 定量目標設定のためのガイドライン
			
使い方	● 企業におけるCE関連の情報開示に向けた全体観の把握 ● 代表的なCE指標の把握	● CPs会員自治体に向けた、CEに関する地域での活動把握・評価のための指標・算定方法を把握	● CPs会員企業におけるCE目標の設定に関するステップ・参考資料の把握
内容	● 企業におけるCE関連の情報開示フレーム・関連するCE指標の紹介	● 地域におけるCE活動を測る指標の紹介 ● 指標を用いた活動の評価方法の紹介	● CPsにおける目標設定のステップ ● 代表的なCE指標については左記資料を踏襲しつつ、一部最新情報に更新

出所：経済産業省「CE実現のための企業における指標設定・活用のガイドライン」（https://www.cps.go.jp/assets/doc/top/circular_guideline.pdf）
サーキュラーパートナーズ「CPs参画自治体向け地域CE指標における評価ツールの説明書」

©copyright Circular Partners

Circular Partners

本資料の作成にご協力いただいた皆さま
ご協力いただきありがとうございました

作成日：2026年 8月

©copyright Circular Partners

更新履歴

バージョン	更新日	更新箇所	更新内容
Vol.1.1	2026年6月24日	第3章　地域CE指標一覧	「①資源制約への対応」「②環境制約への対応」における指標順の入れ替え
		第3章　地域CE指標一覧	「リサイクル費<円>」の計算式を修正
Vol.2	2026年8月3日	第3章　地域CE指標一覧	「④ウェルビーイングの実現」のうち、「環境意識」及び「環境配慮行動の実施度」について「③成長機会の獲得」の指標として更新を実施
		第3章　地域CE指標の活用方法	指標の活用方法に関する資料を追加
		第3章　参考	参考にて、GCP（Global Circularity Protocol for Business）との関連性に関する資料を追加
		第4章	ツールの公開に伴い、第4章を追加

©copyright Circular Partners